

一般	必修	地球科学	0080	学修単位	2	<input type="text"/>	2	大西 浩次
一般	必修	スポーツⅡ	0078	履修単位	1	<input type="text"/>	2	児玉 英樹, 金華 実田, 篠原 克修
一般	選択	日本文学	0079	学修単位	2	<input type="text"/>	2	小池 博明
一般	選択	西洋史	0080	学修単位	2	<input type="text"/>	2	久保田 和男
一般		東洋史	0081	学修単位	2	<input type="text"/>	2	久保田 和男
一般	選択	日本社会史	0082	学修単位	2	<input type="text"/>	2	二星 潤
一般	選択	日本文化史	0083	学修単位	2	<input type="text"/>	2	二星 潤
一般	選択	社会哲学	0084	学修単位	2	<input type="text"/>	2	嶋崎 太一
一般	選択	論理トレーニング	0085	学修単位	2	<input type="text"/>	2	嶋崎 太一
一般	選択	法学	0086	学修単位	2	<input type="text"/>	2	山本 啓介
一般	選択	中国語Ⅰ	0087	学修単位	2	<input type="text"/>	2	張 淑華
一般	選択	中国語Ⅱ	0088	学修単位	2	<input type="text"/>	2	張 淑華
一般	選択	ハングルⅠ	0089	学修単位	2	<input type="text"/>	2	裴 湖珠
一般	選択	ハングルⅡ	0090	学修単位	2	<input type="text"/>	2	裴 湖珠
一般	選択	経済学	0091	学修単位	2	<input type="text"/>	2	中島 琢郎

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIA (S)
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合英語FACTBOOK、総合英語FACTBOOK English Grammar: Standard、その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英語を聞き取ることも目標とし、英会話の基礎を培う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
文法・表現力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて表現することができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、表現することができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を表現することができない。
文法・読解力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。
文法・聴解力	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、聞くことができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方・方法	授業の前半では、次の2点を実施する。①リスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。②文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。				
注意点	成績評価 課題及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものととして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文型 (1)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文型 (2)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文型	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時を表す表現 (1)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時を表す表現 (2)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	完了形 (1)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (2)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	助動詞 (1)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (2)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (3)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態 (1)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	受動態 (2)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞 (1)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (2)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (3)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (1)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (2)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (1)	比較について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	8週	比較（２）	比較について理解し，問題を解くことができる。
	9週	関係詞（１）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	10週	関係詞（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	11週	関係詞（３）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	12週	パッケージ表現としての節（１）（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	13週	仮定法（１）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	14週	仮定法（２）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	15週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し，問題を解くことができる。
	16週	まとめ・復習	これまでの文法事項の学習項目をおさらいする。

評価割合

	定期試験	リスニング課題				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語Ⅲ (機械)
科目基礎情報					
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	・『精選現代文B 新訂版』(大修館)				
担当教員	牧 千夏				
到達目標					
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで、学習・教育目標(A-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評論文の読解能力	論理的文章の論理の展開を理解し、要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。		
文学的文章の読解能力	文学的文章について、書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき、登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。		
書く力と語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって、積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と、文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と、それについての課題を課す。 ・適宜、宿題やノート提出を課すので、期限内に遅れず提出すること。 				
注意点	<p><成績評価>・・・試験 40%(前期中間に1回だけ行います)・発言 10%・課題 20%・プレゼン30%の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><オフィスアワー>放課後(16:00~17:00)。これ以外の時間でも対応する。</p> <p><先修科目・後修科目>先修科目は国語Ⅱ、後修科目は国語Ⅳ、日本文学。</p> <p><備考>意見や感想の表明などは、授業または提出物などで適宜行う。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	・本科目の目的や概要などについて理解できる。	
		2週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		3週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		4週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		5週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		6週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		7週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		8週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
	2ndQ	9週	プレゼン準備	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		10週	プレゼン	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		11週	プレゼン	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		12週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		13週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		14週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		15週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		16週	予備日		
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		40	60	100	
配点		40	60	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語Ⅲ (電気)
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	・『精選現代文B 新訂版』(大修館)				
担当教員	牧 千夏				
到達目標					
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで、学習・教育目標(A-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評論文の読解能力	論理的文章の論理の展開を理解し、要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。		
文学的文章の読解能力	文学的文章について、書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき、登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。		
書く力と語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって、積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と、文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と、それについての課題を課す。 ・適宜、宿題やノート提出を課すので、期限内に遅れず提出すること。 				
注意点	<p><成績評価>・・・試験 40% (前期中間に1回だけ行います) ・発言 10% ・課題 20% ・プレゼン30%の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><オフィスアワー>放課後(16:00~17:00) .これ以外の時間でも対応する。</p> <p><先修科目・後修科目>先修科目は国語Ⅱ、後修科目は国語Ⅳ、日本文学。</p> <p><備考>意見や感想の表明などは、授業または提出物などで適宜行う。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	・本科目の目的や概要などについて理解できる。	
		2週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		3週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		4週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		5週	「である」と「する」こと	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		6週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		7週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		8週	地球システムの中の人間	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
	2ndQ	9週	プレゼン準備	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		10週	プレゼン	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		11週	プレゼン	・論理構成が理解できる。 ・筆者の主張が理解できる。	
		12週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		13週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		14週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		15週	プレゼン	・文学的文章の場面や情景を想像できる。 ・登場人物の心情を理解することができる。	
		16週	予備日		
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		40	60	100	
配点		40	60	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語Ⅲ (制御)	
科目基礎情報						
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店), その他に2学年次に使用した、『常用漢字ダブルクリア』, 国語便覧, 国語辞書など.					
担当教員	藤原 崇雅					
到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
論理的文章	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる.		論理的文章の文意を理解できる.		論理的文章が理解できない.	
文学的文章	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる.		文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる.		文学的文章が理解できない.	
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる.		基本的な語彙が理解できる.		基本的な語彙力がない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する. ・実用的な文章を理解し作成する能力と, 目的に応じた情報収集の能力を育成する.					
授業の進め方・方法	・講義と, それについての課題を課す. ・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限に遅れず提出すること.					
注意点	<成績評価> 試験(80%)および課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする. <オフィスアワー> 授業の後の休憩時間に非常勤講師控え室等に対応する. <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 日本文学. <備考> 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス		・本科目の目的や概要などについて理解できる.	
		2週	評論 1-1		・論理的文章に表された考えを理解できる. ・論理的文章の構成や展開を的確にとらえ, 要約できる.	
		3週	評論 1-2		・論理的文章の論拠の妥当性の判断を踏まえて, 自分の意見を述べるることができる.	
		4週	小説 1-1		・文学的文章に描かれた人物像を読み取れる.	
		5週	小説 1-2		・文学的文章に描かれたものの見方を表現に即して読み取れる.	
		6週	小説 1-3		・文学的文章に描かれた人物像やものの見方に対して, 自分の意見を述べるることができる.	
		7週	実用的な文章		・実用的な文章を, 相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる.	
	8週	これまでの理解度の確認		・これまでの学習内容について, 理解できている.		
	2ndQ	9週	評論 1-1		・論理的文章に表された考えを理解できる. ・論理的文章の構成や展開を的確にとらえ, 要約できる.	
		10週	評論 1-2		・論理的文章の論拠の妥当性の判断を踏まえて, 自分の意見を述べるることができる.	
		11週	小説 1-1		・文学的文章に描かれた人物像を読み取れる.	
		12週	小説 1-2		・文学的文章に描かれたものの見方を表現に即して読み取れる.	
		13週	小説 1-3		・文学的文章に描かれた人物像やものの見方に対して, 自分の意見を述べるることができる.	
		14週	情報収集		・目的に応じて, 印刷物やインターネットから適切な情報を収集できる.	
		15週	前期末達成度試験		・これまでの学習内容について, 理解できている.	
16週		まとめと復習		・これまでの学習内容をまとめ, 復習することができる.		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅲ(情報)	
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	一般/必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店), 問題集『LT現代文3』(浜島書店), その他に2学年次に使用した、『常用漢字ダブルクリア 四訂版』(尚文出版), 国語便覧, 国語辞書など。					
担当教員	小池 博明					
到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
論理的文章	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。		論理的文章の文意を理解できる。		論理的文章が理解できない。	
文学的文章	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。		文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。		文学的文章が理解できない。	
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。		基本的な語彙が理解できる。		基本的な語彙力がない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的な文章を客観的に理解する能力と, 文学的な文章を読解し鑑賞する能力を育成する。					
授業の進め方・方法	・講義と, それについての課題を課す。 ・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限に遅れず提出すること。					
注意点	<成績評価> 試験(80%)および課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3階。この時間にとらわれず必要に応じて来室可。 <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 日本文学。 <備考> 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論 1-1	・本科目の目的や概要などについて理解できる。 ・正しい音読ができる。 ・筆者の考えと一般論が区別できる。		
		2週	評論 1-2	抽象的な論理と具体例とが区別できる。		
		3週	評論 1-3	論理がどのように展開しているかが理解できる。		
		4週	評論 1-4	文章を要約できる。		
		5週	評論 2-1	・正しい音読ができる。 ・文章の論理に従って段落分けができる。		
		6週	評論 2-2	・キーワードが理解できる。 ・接続詞などから論理の展開を理解することができる。		
		7週	評論 2-3			
		8週	評論 2-4	筆者の考えに対して, 自分の意見や感想を述べることができる。		
	2ndQ	9週	小説 1-1	正しい音読ができる。 小説の展開にそった段落分けができる。		
		10週	小説 1-2	描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。		
		11週	小説 1-3	作品の主題が理解できる。作品に対して感想を述べる ことができる。		
		12週	評論 3-1	これまで学習した評論の読み方を深め, より確実な ものとする事ができる。		
		13週	評論 3-2			
		14週	評論 3-3			
		15週	試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅲ(環境)	
科目基礎情報						
科目番号	0030		科目区分	一般/必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店), 問題集『LT現代文3』(浜島書店), その他に2学年次に使用した, 『常用漢字ダブルクリア 四訂版』(尚文出版), 国語便覧, 国語辞書など.					
担当教員	小池 博明					
到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
論理的文章	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる.		論理的文章の文意を理解できる.		論理的文章が理解できない.	
文学的文章	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる.		文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる.		文学的文章が理解できない.	
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる.		基本的な語彙が理解できる.		基本的な語彙力がない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する.					
授業の進め方・方法	・講義と, それについての課題を課す. ・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限に遅れず提出すること.					
注意点	<成績評価> 試験(80%)および課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする. <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3階. この時間にとらわれず必要に応じて来室可. <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 日本文学. <備考> 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論 1-1	・本科目の目的や概要などについて理解できる. ・正しい音読ができる. ・筆者の考えと一般論が区別できる.		
		2週	評論 1-2	抽象的な論理と具体例とが区別できる.		
		3週	評論 1-3	論理がどのように展開しているかが理解できる.		
		4週	評論 1-4	文章を要約できる.		
		5週	評論 2-1	・正しい音読ができる. ・文章の論理に従って段落分けができる.		
		6週	評論 2-2	・キーワードが理解できる. ・接続詞などから論理の展開を理解することができる.		
		7週	評論 2-3			
		8週	評論 2-4	筆者の考えに対して, 自分の意見や感想を述べることができる.		
	2ndQ	9週	小説 1-1	正しい音読ができる. 小説の展開にそった段落分けができる.		
		10週	小説 1-2	描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる.		
		11週	小説 1-3	作品の主題が理解できる. 作品に対して感想を述べる ことができる.		
		12週	評論 3-1	これまで学習した評論の読み方を深め, より確実なもの とすることができる.		
		13週	評論 3-2			
		14週	評論 3-3			
		15週	試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代社会
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『高等学校 改訂版 現代社会』 (第一学習社) / 『クローズアップ公共2023』 (第一学習社)				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
本授業では、現代社会における問題や身近な出来事を取り上げ、その出来事の思想的背景も踏まえつつ、政治・法・経済・社会問題などについて学ぶ。それらの知識をもとに、どのような社会をつくっていくべきか、根拠をもとに論理的に考えられることによって、学習教育目標の (A-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
現代社会の基盤となっている思想や理念、宗教などについて理解する。	重要な思想や理念、宗教などを身近な社会と関連付けて十分に説明できる。	重要な思想や理念、宗教について、おおよそ理解できている。	重要な思想や理念、宗教を理解できない。		
我が国の憲法や政治の在り方について理解する。	憲法や政治の在り方について理解し、自ら考え説明できる。	憲法や政治の在り方を、おおよそ理解できている。	憲法や政治の在り方を理解できない。		
現代の経済体制や金融、財政について理解する。	経済体制や金融、財政について理解し、自ら考え説明できる。	経済体制や金融、財政について、おおよそ理解できている。	経済体制や金融、財政について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	民主主義社会の基盤となった思想や理念、現代に大きな影響を与えた宗教などを踏まえつつ、現代日本の憲法、政治制度、経済の仕組みや、国際政治、国際経済の現状を概説する。				
授業の進め方・方法	我々は常に既にこの世界に生き、生活している。この世界の基本的な原理を知ることなしに、この世界で活動することはできない。 我々が他者と共に生活するこの「空間」は、「公共的空間」と呼ばれる。公共的空間の在り方には正解はないかもしれない。 ただし、正解を求めることはできる。本授業を通して、公共的空間に生きるということとはどのようなことなのか、考えるための素材を提供する。 ・授業方法は講義を中心とするが、適宜質問などをするので積極的に対話に参加してもらいたい。 ・適宜、課題を課すので、期限に遅れず提出すること。				
注意点	<成績評価> 前期・後期とも、中間試験 (35%) ・期末試験 (35%) , 平常点 (30%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。 <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00 <先修科目・後修科目> 先修科目: 世界史, 日本史 / 後修科目: 倫理学, 日本社会史, 西洋史, 社会哲学, 法学, 日本文化史, 論理トレーニング, 経済学, 東洋史				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス / 公共性とは何か	公共性について理解する。	
		2週	現代の社会情勢の背景としての宗教と思想	社会について考えるための基本的な思想や三大宗教、日本人の宗教観などについて概観する。	
		3週	政治の本質と民主主義	政治や国家とは何かを理解し、世界の政治体制について概観する。	
		4週	法の支配と日本国憲法	法の支配とは何かを考え、日本国憲法の特質や基本原理について理解する。	
		5週	平和主義と安全保障	平和主義の考え方と日本の安全保障政策を理解する。	
		6週	基本的人権の保障	日本国憲法で規定されている基本的人権を理解する。	
		7週	日本の政治機構	日本の立法、行政、司法の仕組みと関係を理解する。	
		8週	選挙と政党政治	日本の選挙制度、政党政治の実態を理解する。	
	2ndQ	9週	経済の本質と経済体制	経済とは何かを考え、資本主義など経済体制の特質を理解する。	
		10週	企業と市場経済	企業の仕組みや市場経済の原理を理解する。	
		11週	経済成長と景気変動	経済成長の指標や景気変動の仕組みを理解する。	
		12週	財政と金融	財政の機能や現状、金融の仕組みを理解する。	
		13週	国際政治	国際法、国連など国際政治の概要を理解する。	
		14週	国際経済	通貨制度など国際経済の仕組みを理解する。	
		15週	前期末達成度試験	理解度を確認する。	
		16週	振り返りとまとめ	授業内容を振り返り、総括を行う。	
評価割合					
	試験	レポート	合計		
総合評価割合	70	30	100		
配点	70	30	100		

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	保健・体育Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0032		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール, 指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 金田 華実				
到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
意欲・関心	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
技能	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
思考・判断	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して、運動種目に内在する固有の楽しさや喜びを体得し、運動に親しむ能力や態度を養う。また、現代社会における健康に関わる諸問題、生活スタイルの変化に伴う無意識的な運動機会の減少(体力低下)やその防止策について理解を深める。				
授業の進め方・方法	授業方法は、実技が中心となるが、必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<成績評価> 上記(到達目標)に従い、100点満点で(A-2)を評価し、合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週火曜日16:00~17:00 金田, 児玉: 第1体育館 <先修科目・後修科目> 先修科目: 保健・体育II 後修科目: スポーツI <備考> やむを得ない理由により欠課時数が6時間を超えてしまった場合には、申し出により補習を行うことがあるが、その場合でも欠課時数の合計が、総授業時数の1/5以内を目安とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。		
	2週	スポーツテスト① ・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	・運動能力, 体力の実態把握のために, 意欲的にテストに取り組むことができる。		
	3週	スポーツテスト②	"		
	4週	種目選択I(テニス・ソフトボール)① <テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サービスなど, W-ゲームの把握。 <ソフトボール> バッティング, 守備, ルールの理解など。	<全般> ・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 <テニス> ・ダブルスゲームでは, 仲間と協力しながら試合ができる。 <ソフトボール> ・チーム内での役割を理解し, チーム力の向上に貢献できる。		
	5週	種目選択I(テニス・ソフトボール)②	"		
	6週	種目選択I(テニス・ソフトボール)③	"		
	7週	種目選択I(テニス・ソフトボール)④	"		
	8週	種目選択I(テニス・ソフトボール)⑤	"		
	9週	種目選択I(テニス・ソフトボール)⑥	"		
	10週	種目選択I(テニス・ソフトボール)⑦	"		
	11週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)① <球技系種目> 基本的技術・戦術の習得。 <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。	<全般> ・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 <トレーニング> ・各種トレーニングの目的や正しい実施方法を理解し, 意欲的に実践することができる。		
	12週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"		
	13週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	"		
	14週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	"		

		15週	種目選択Ⅱ(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	〃
		16週		
後期	3rdQ	1週	種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)① 基本的技術・戦術の習得.	<全般>・技能向上に向けて、積極的に活動に取り組むことができる。 <テニス>・ダブルスゲームでは、仲間と協力しながら試合ができる。 <サッカー>・チーム内での役割を理解し、チーム力の向上に貢献できる。
		2週	種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)②	〃
		3週	種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)③	〃
		4週	種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)④	〃
		5週	持久走① ・学校外周(3.34km)・・・3回 種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)⑤	<持久走>・健康的な生活を生涯続けるには、心肺機能を高める持久的種目の実践(習慣)が必要であることを理解し、意欲的に課題に取り組むことができる。
		6週	持久走② 種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)⑥	〃
		7週	持久走③ 種目選択Ⅲ(テニス・サッカー)⑦	〃
		8週	スケート① Mウェーブにて実施。各自の技量に合わせた目標を立て実践する。	・長野特有のウィンタースポーツの歴史を知り、意欲的に体験できる。 ・記録測定など仲間と協力しながら、自ら率先して課題に取り組むことができる。
	4thQ	9週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)① <球技系種目>基本的技術・戦術の習得。 <トレーニング>各種トレーニングの理解と実践、ウエイトトレーニング、自転車を利用したトレーニングなど。	<全般>・技能向上に向けて、積極的に活動に取り組むことができる。 <トレーニング>・各種トレーニングの目的や正しい実施方法を理解し、意欲的に実践することができる。
		10週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)②	〃
		11週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)③	〃
		12週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)④	〃
		13週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	〃
		14週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	〃
		15週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑦	〃
		16週		

評価割合

	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	100
配点	0	60	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 (留学生対象)
科目基礎情報					
科目番号	0033		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	アスク『日本語能力試験対策日本語総まとめ N2漢字』くろしお出版『読む力 中級』(予定)				
担当教員	岡宮 美樹				
到達目標					
日本での学生生活を送る上で、必要不可欠な漢字の読み書きが十分にできること。基礎的で、ある程度の長さの日本語の文章の読解ができる。また、新聞等の一般的な日本語の文章を要約することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 必要不可欠な漢字の読み書きが十分にできること。	90%以上習得できている。	70%以上習得できている。	習得が59%以下である。		
評価項目2 基礎的で、ある程度の長さの日本語の文章の読解ができる。	書かれている内容について、十分に理解し、正確に情報を読み取ることができる。	書かれている内容について、概ね理解できるが、複雑な内容になると十分に理解できない。	書かれている内容について、読み取ることができない。		
評価項目3 新聞等の一般的な日本語の文章を要約することができる。	記事の内容を十分に理解し、必要な情報を正確にまとめることができる。	記事の内容を理解し、必要な情報をまとめることができる。	記事の内容を理解し、情報をまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学生生活を送る上で基本的な漢字の習得を進めると同時に、日本語での論文の構成、執筆方法を理解し、さらに自力での論文読解を目指す。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は講義形式をとるが、語学習得を目的としているため、各自の積極的な参加を期待する。 ・毎時間、漢字の小テストを行う。 				
注意点	<p><成績評価> 定期試験、課題提出で総合的に判断する。100点満点により評価し、6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><教材> 旺文社『JLPT日本語能力試験ターゲット1000 N1漢字』 くろしお出版『読む力 中級』 ※プレイズメントテストの結果により教材の変更がある可能性あり。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	プレイズメントテスト、オリエンテーション	・各自の日本語力を測る。1年間の授業の予定を理解する。	
		2週	JLPT「カタカナ語」	日常、よく使われるカタカナ語を中心にJLPTの試験問題で習得を図る。	
		3週	1課「心のバリアフリー」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		4週	1課「心のバリアフリー」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		5週	2課「30代ビジネスマンの『心の病』を考える」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		6週	2課「31代ビジネスマンの『心の病』を考える」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		7週	3課「少女マンガ家ぐらし」へ	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		8週	3課「少女マンガ家ぐらし」へ	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
	2ndQ	9週	4課「プロフィール」	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		10週	4課「プロフィール」	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		11週	5課「インタビュー」	対話形式のテキストを読んで、テーマにそって発言の要点が把握できる。	
		12週	5課「インタビュー」	対話形式のテキストを読んで、テーマにそって発言の要点が把握できる。	
		13週	6課「いつも学びがある」	伝記やドキュメンタリーを読んで、描かれた人物の特徴が把握できる。	
		14週	6課「いつも学びがある」	伝記やドキュメンタリーを読んで、描かれた人物の特徴が把握できる。	
		15週	JLPT漢字模擬試験	日本語能力試験N1レベルの漢字語彙問題に挑戦する。	
		16週			

後期	3rdQ	1週	7課「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	・自己啓発書の一節を読んで、筆者の提案とその根拠が把握できる。
		2週	7課「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	・自己啓発書の一節を読んで、筆者の提案とその根拠が把握できる。
		3週	8課 緑のカーテン	・新聞のコラムや特集記事を読んで、とりあげられた事象の現状、展望、原因、問題点などが把握できる。
		4週	8課 緑のカーテン	
		5週	9課 環境独立国ニッポンの挑戦	・新聞のコラムや特集記事を読んで、とりあげられた事象の現状、展望、原因、問題点などが把握できる。
		6週	9課 環境独立国ニッポンの挑戦	
		7週	10課 渡り鳥はなぜ迷わない？	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
		8週	10課 渡り鳥はなぜ迷わない？	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
	4thQ	9週	11課 フリーズする脳	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
		10週	11課 フリーズする脳	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
		11週	「クリティカルリーディング」	・クリティカルリーディングについて理解し、実践する。
		12週	12課 私のニュースの読み方	・教養書の一節を読み、筆者の問題提起、論点、主張、意図などが把握できる。
		13週	13課 住まい方の思想	・エッセイやコラムを読み、比較、対照、構造化、アナロジーを押しさえながら、筆者の主張、意図が把握できる。
		14週	14課 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ。	・エッセイやコラムを読み、比較、対照、構造化、アナロジーを押しさえながら、筆者の主張、意図が把握できる。
		15週	全体のまとめ	・1年間を振り返り、各自でこの授業で学んだことをまとめる。
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本事情 (留学生対象)
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 高等学校地図. 参考書: 授業で随時紹介する.				
担当教員	久保田 和男, 二星 潤				
到達目標					
<地理歴史分野> 授業の内容をふまえて, 関連する問題について記述できること. それにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする. <公民分野> 授業の内容をふまえて, 日本社会のしくみを把握し, 関連する問題について記述できること. それにより学習・教育目標の (A-1) の達成とする.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
地理的分野	日本の気候や産業などを説明できる		日本の地理を基本的に理解している		日本の県や都市などについて説明できない
歴史的分野	日本の国の歴史と自分の国の歴史の違いを説明できる.		各時代の特徴を説明できる.		各時代の特徴を説明できない.
政治・経済分野	日本の政治・経済状況を理解し, その問題点について説明できる.		日本の政治・経済のしくみを理解し, 説明できる.		日本の政治・経済のしくみを理解・説明できない.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<地理歴史分野> 現代の日本社会はどのようにつくられたのか. それを説明する日本語の文章を点検しながら, 日本社会の成り立ちと現代日本について学ぶ. <公民分野> 現在の日本社会における政治制度や経済のしくみ, 文化や慣習について, それが形成された背景に触れつつ, 学ぶ.				
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし, ノート点検を行う.				
注意点	<成績評価> 小テスト (70%) と平常点 (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする. <オフィスアワー> 二星潤: 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	自己紹介. 自分の国を紹介.	
		2週	日本のひろがり	日本の領土の範囲や地方区分	
		3週	日本の祝日	日本の祝日について	
		4週	日本の首都	東京について調べる.	
		5週	日本の地形	日本の地形について調べる.	
		6週	日本の自然	日本の気候や災害について調べる.	
		7週	日本の人口	日本の人口とその変化について調べる.	
		8週	日本の鉱業	日本の鉱産資源・エネルギー問題	
	2ndQ	9週	日本の農林水産業	農業・漁業・林業について学ぶ.	
		10週	日本の工業	日本の工業 公害問題について.	
		11週	古代の日本と東アジア	古代の日本と東アジアの関係について学ぶ.	
		12週	律令国家の形成	奈良時代の政治と外交について学ぶ.	
		13週	平安時代	平安時代の政治と外交について学ぶ.	
		14週	鎌倉幕府	鎌倉幕府とモンゴル襲来について学ぶ.	
		15週	室町幕府	室町幕府の政治と外交について学ぶ.	
		16週	授業のまとめ	前期のまとめをおこなう.	
後期	3rdQ	1週	戦国時代から天下統一	戦国時代から天下統一までの流れをおさえる.	
		2週	江戸幕府の成立	江戸幕府の成立と江戸時代の社会について学ぶ.	
		3週	開国と幕末の動乱	開国までの流れをおさえる.	
		4週	近代日本の成立とアジア	近代日本の成立とアジアの関係について学ぶ.	
		5週	日本の戦争と戦後の日本の成長	近代の日本の戦争と戦後の日本の成長について学ぶ.	
		6週	法・憲法 (1) 日本国憲法の三原則	「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を学ぶ.	
		7週	法・憲法 (2) 日本国憲法の特徴	他国の憲法や明治憲法と比較しながら日本国憲法を学ぶ.	
		8週	政治 (1) 戦後の日本政治	政党政治と選挙の仕方について学ぶ.	
	4thQ	9週	政治 (2) 外交と安全保障	平和と安全保障, 日本と外国の関係について学ぶ.	
		10週	経済 (1) 高度経済成長と産業構造	戦後の経済史, 日本と外国の貿易関係について学ぶ.	
		11週	経済 (2) 経済と国民生活	経済成長と経済不況がおよぼす国民生活への影響を学ぶ.	

	12週	社会（1）家族と社会生活	若者の結婚観と男女共同参画社会について学ぶ。
	13週	社会（2）現代日本社会の課題	少子高齢化社会の背景と、社会保障制度について学ぶ。
	14週	文化（1）宗教	日本の宗教事情や宗教的慣習について学ぶ。
	15週	文化（2）現代日本の文化	日本の地域文化やポップカルチャーについて学ぶ。
	16週	授業のまとめ	後期のまとめをおこなう。

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	70	30	0	0	100
配点	0	70	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIA (M)
科目基礎情報					
科目番号	0035		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合英語FACTBOOK、総合英語FACTBOOK English Grammar: Standard、その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英語を聞き取ることも目標とし、英会話の基礎を培う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
文法・表現力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて表現することができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、表現することができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を表現することができない。		
文法・読解力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
文法・聴解力	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、聞くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方・方法	授業の前半では、次の2点を実施する。①リスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。②文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。				
注意点	成績評価 課題及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文型 (1)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文型 (2)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文型	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時を表す表現 (1)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時を表す表現 (2)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	完了形 (1)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (2)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	助動詞 (1)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (2)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (3)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態 (1)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	受動態 (2)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞 (1)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (2)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (3)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (1)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (2)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (1)	比較について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	8週	比較（２）	比較について理解し，問題を解くことができる。
	9週	関係詞（１）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	10週	関係詞（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	11週	関係詞（３）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	12週	パッケージ表現としての節（１）（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	13週	仮定法（１）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	14週	仮定法（２）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	15週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し，問題を解くことができる。
	16週	まとめ・復習	これまでの文法事項の学習項目をおさらいする。

評価割合

	定期試験	リスニング課題				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIA (E)
科目基礎情報					
科目番号	0036		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合英語FACTBOOK、総合英語FACTBOOK English Grammar: Standard、その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すこと(F2)の達成とする。また、基本的な英語を聞き取ることも目標とし、英会話の基礎を培う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
文法・表現力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて表現することができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、表現することができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を表現することができない。		
文法・読解力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
文法・聴解力	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、聞くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方・方法	授業の前半では、次の2点を実施する。①リスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。②文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。				
注意点	成績評価 課題及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものととして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文型 (1)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文型 (2)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文型	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時を表す表現 (1)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時を表す表現 (2)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	完了形 (1)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (2)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	助動詞 (1)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (2)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (3)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態 (1)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	受動態 (2)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞 (1)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (2)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (3)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (1)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (2)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (1)	比較について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	8週	比較（２）	比較について理解し，問題を解くことができる。
	9週	関係詞（１）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	10週	関係詞（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	11週	関係詞（３）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	12週	パッケージ表現としての節（１）（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	13週	仮定法（１）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	14週	仮定法（２）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	15週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し，問題を解くことができる。
	16週	まとめ・復習	これまでの文法事項の学習項目をおさらいする。

評価割合

	定期試験	リスニング課題				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIA (J)
科目基礎情報					
科目番号	0037		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合英語FACTBOOK、総合英語FACTBOOK English Grammar: Standard、その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英語を聞き取ることも目標とし、英会話の基礎を培う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
文法・表現力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて表現することができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、表現することができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を表現することができない。
文法・読解力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。
文法・聴解力	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができる。		文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、聞くことができる。		文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方・方法	授業の前半では、次の2点を実施する。①リスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。②文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。				
注意点	成績評価 課題及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものととして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文型 (1)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文型 (2)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文型	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時を表す表現 (1)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時を表す表現 (2)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	完了形 (1)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (2)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	助動詞 (1)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (2)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (3)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態 (1)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	受動態 (2)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞 (1)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (2)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (3)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (1)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (2)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (1)	比較について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	8週	比較（２）	比較について理解し，問題を解くことができる。
	9週	関係詞（１）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	10週	関係詞（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	11週	関係詞（３）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	12週	パッケージ表現としての節（１）（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	13週	仮定法（１）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	14週	仮定法（２）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	15週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し，問題を解くことができる。
	16週	まとめ・復習	これまでの文法事項の学習項目をおさらいする。

評価割合

	定期試験	リスニング課題				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIA (C)
科目基礎情報					
科目番号	0038		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	総合英語FACTBOOK、総合英語FACTBOOK English Grammar: Standard、その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英語を聞き取ることも目標とし、英会話の基礎を培う。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
文法・表現力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて表現することができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、表現することができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を表現することができない。		
文法・読解力	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
文法・聴解力	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、聞くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を聞くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方・方法	授業の前半では、次の2点を実施する。①リスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。②文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。				
注意点	成績評価 課題及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文型 (1)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文型 (2)	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文型	文型について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	時を表す表現 (1)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	時を表す表現 (2)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	完了形 (1)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (2)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	助動詞 (1)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (2)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (3)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	受動態 (1)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	受動態 (2)	受動態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	不定詞 (1)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (2)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (3)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (1)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (2)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (2)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (1)	比較について理解し、問題を解くことができる。	

4thQ	8週	比較（２）	比較について理解し，問題を解くことができる。
	9週	関係詞（１）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	10週	関係詞（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	11週	関係詞（３）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	12週	パッケージ表現としての節（１）（２）	関係詞について理解し，問題を解くことができる。
	13週	仮定法（１）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	14週	仮定法（２）	仮定法について理解し，問題を解くことができる。
	15週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し，問題を解くことができる。
	16週	まとめ・復習	これまでの文法事項の学習項目をおさらいする。

評価割合

	定期試験	リスニング課題				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIB (M)
科目基礎情報					
科目番号	0039		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Science in Progress, DataBase4500				
担当教員	小宮山 真美子				
到達目標					
<p>本授業の目的は、アメリカ国立学術文化研究機関であるスミソニアン協会がオンライン発行しているSmithsonian.comのSmart Newsから、認知科学、遺伝子工学、ロボット工学、医療といった幅広い分野の記事を読み、自身の興味関心に結び付けることで「英語を読んで考える力」を鍛えることにある。「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」などの記事を読みながら、テクノロジーがどのように我われの日常に関わっているか理解を深める。その上で、テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。</p> <p>また、英語での読解を理解しやすくするため、前置詞、複合名詞、冠詞、句読点、接頭辞・接尾辞、数量表現などの復習を行い、科学的な英語表現の基礎的な運用力を鍛える。加えて毎週DataBase4500に基づいた単語テストを行う。その上で内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようにし、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理工系分野を中心としたテキストを読み、多種多様な事象やユニークなもの見方に反応して内容の理解を深めるとともに、自分なりの興味関心に結び付けることで「考える力」を鍛えることにある。テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。また英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。 ・適宜、課題プリント、ノートチェック、単語テストを課す。 ・Teams, GoogleClassroomを用いて資料配布、課題の提出などを行う。 ・課題は期限に遅れずに提出すること。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：水曜日 14:30~16:00 この時間以外でも必要に応じて来室して下さい 先修科目は英語IIA、英語IIIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	<ul style="list-style-type: none"> ・英語Ⅲの授業・学習方法について説明 ・「創造性を高めたければ、エジソンやダリのように昼寝をしよう」に関する英文を読む ・「冠詞」の確認 		
	2週	Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	同上		
	3週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	<ul style="list-style-type: none"> ・「カーリングロボットの「カーリー」はプロ相手の試合で大活躍」に関する英文を読む ・「句読点」(コロン、セミコロン、ダッシュ)の確認 		
	4週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	同上		
	5週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」に関する英文を読む ・「抽象名詞が普通名詞になるとき」の確認 		
	6週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	同上		
	7週	復習：Unit1~3のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。		
	8週	理解度の確認			
	9週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	<ul style="list-style-type: none"> ・「キノコで創る人工レザーは次世代を担うサステナブルなファッション素材」に関する英文を読む ・「前置詞1」の確認 		
	10週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	同上		

後期	3rdQ	11週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	・「科学者はヒトの心臓細胞を使って泳ぐ人工魚を創り出した」に関する英文を読む ・「前置詞 2」の確認		
		12週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	同上		
		13週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	・「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認		
		14週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	同上		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。		
	4thQ	3rdQ	1週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	・「ロボットはゆうゆうと30mジャンプして新記録をつかった」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認	
			2週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	同上	
			3週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	・「宇宙飛行士の赤血球は宇宙で破壊されている」に関する英文を読む ・「複合名詞」の確認	
			4週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	同上	
			5週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	・「マンモスを10年以内に完全復活させる計画が進行中」に関する英文を読む ・「複合形容詞 1」の確認	
			6週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	同上	
			7週	復習： Unit7~9 のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。	
			8週	理解度の確認		
		4thQ	4thQ	9週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	・「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」に関する英文を読む ・「複合名詞 2」の用語の確認
				10週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	同上
11週	Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce			・「昨年発表された世界初の生体ロボット。今は子孫を残せることに」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 1」の確認		
12週	Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce			同上		
13週	Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists			・「筆遣いだけでその絵の作者を当ててしまう新技術」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 2」の表現の確認		
14週	Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists			同上		
15週	学年末達成度試験					
16週	まとめと復習			これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。		

評価割合

	試験	単語テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	20	5	5	100
基礎的能力	70	20	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	5	5	10

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIB (E)
科目基礎情報					
科目番号	0040	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	Science in Progress, DataBase4500				
担当教員	小宮山 真美子				
到達目標					
<p>本授業の目的は、アメリカ国立学術文化研究機関であるスミソニアン協会がオンライン発行しているSmithsonian.comのSmart Newsから、認知科学、遺伝子工学、ロボット工学、医療といった幅広い分野の記事を読み、自身の興味関心に結び付けることで「英語を読んで考える力」を鍛えることにある。「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」などの記事を読みながら、テクノロジーがどのように我々の日常に関わっているか理解を深める。その上で、テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。</p> <p>また、英語での読解を理解しやすくするため、前置詞、複合名詞、冠詞、句読点、接頭辞・接尾辞、数量表現などの復習を行い、科学的な英語表現の基礎的な運用力を鍛える。加えて毎週DataBase4500に基づいた単語テストを行う。その上で内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理工系分野を中心としたテキストを読み、多種多様な事象やユニークなもの見方に反応して内容の理解を深めるとともに、自分なりの興味関心に結び付けることで「考える力」を鍛えることにある。テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。また英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。 ・適宜、課題プリント、ノートチェック、単語テストを課す。 ・Teams, GoogleClassroomを用いて資料配布、課題の提出などを行う。 ・課題は期限に遅れずに提出すること。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：水曜日 14:30~16:00 この時間以外でも必要に応じて来室して下さい 先修科目は英語IIA、英語IIIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	<ul style="list-style-type: none"> ・英語Ⅲの授業・学習方法について説明 ・「創造性を高めれば、エジソンやダリのように昼寝をしよう」に関する英文を読む ・「冠詞」の確認 		
	2週	Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	同上		
	3週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	<ul style="list-style-type: none"> ・「カーリングロボットの「カーリー」はプロ相手の試合で大活躍」に関する英文を読む ・「句読点」(コロン、セミコロン、ダッシュ)の確認 		
	4週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	同上		
	5週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」に関する英文を読む ・「抽象名詞が普通名詞になるとき」の確認 		
	6週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	同上		
	7週	復習： Unit1~3 のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。		
	8週	理解度の確認			
	9週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	<ul style="list-style-type: none"> ・「キノコで創る人工レザーは次世代を担うサステナブルなファッション素材」に関する英文を読む ・「前置詞1」の確認 		
	10週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	同上		

後期		11週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	・「科学者はヒトの心臓細胞を使って泳ぐ人工魚を創り出した」に関する英文を読む ・「前置詞 2」の確認	
		12週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	同上	
		13週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	・「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認	
		14週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	同上	
		15週	前期未達成度試験		
		16週	まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。	
	後期	3rdQ	1週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	・「ロボットはゆうゆうと30mジャンプして新記録をつかった」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認
			2週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	同上
			3週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	・「宇宙飛行士の赤血球は宇宙で破壊されている」に関する英文を読む ・「複合名詞」の確認
			4週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	同上
			5週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	・「マンモスを10年以内に完全復活させる計画が進行中」に関する英文を読む ・「複合形容詞 1」の確認
			6週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	同上
			7週	復習： Unit7~9 のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。
			8週	理解度の確認	
		4thQ	9週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	・「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」に関する英文を読む ・「複合名詞 2」の用語の確認
			10週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	同上
11週			Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce	・「昨年発表された世界初の生体ロボット。今は子孫を残せることに」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 1」の確認	
12週			Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce	同上	
13週			Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists	・「筆遣いだけでその絵の作者を当ててしまう新技術」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 2」の表現の確認	
14週			Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists	同上	
15週			学年末達成度試験		
16週			まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。	

評価割合

	試験	単語テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	20	5	5	100
基礎的能力	70	20	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	5	5	10

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIB (S)
科目基礎情報					
科目番号	0041		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Science in Progress, DataBase4500				
担当教員	小宮山 真美子				
到達目標					
<p>本授業の目的は、アメリカ国立学術文化研究機関であるスミソニアン協会がオンライン発行しているSmithsonian.comのSmart Newsから、認知科学、遺伝子工学、ロボット工学、医療といった幅広い分野の記事を読み、自身の興味関心に結び付けることで「英語を読んで考える力」を鍛えることにある。「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」などの記事を読みながら、テクノロジーがどのように我われの日常に関わっているか理解を深める。その上で、テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。</p> <p>また、英語での読解を理解しやすくするため、前置詞、複合名詞、冠詞、句読点、接頭辞・接尾辞、数量表現などの復習を行い、科学的な英語表現の基礎的な運用力を鍛える。加えて毎週DataBase4500に基づいた単語テストを行う。その上で内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理工系分野を中心としたテキストを読み、多種多様な事象やユニークなもの見方に反応して内容の理解を深めるとともに、自分なりの興味関心に結び付けることで「考える力」を鍛えることにある。テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。また英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。 ・適宜、課題プリント、ノートチェック、単語テストを課す。 ・Teams, GoogleClassroomを用いて資料配布、課題の提出などを行う。 ・課題は期限に遅れずに提出すること。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：水曜日 14:30~16:00 この時間以外でも必要に応じて来室して下さい 先修科目は英語IIA、英語IIIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	<ul style="list-style-type: none"> ・英語Ⅲの授業・学習方法について説明 ・「創造性を高めたければ、エジソンやダリのように昼寝をしよう」に関する英文を読む ・「冠詞」の確認 		
	2週	Unit 1:Need a Creative Boost? Nap Like Thomas Edison and Salvador Dalí	同上		
	3週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	<ul style="list-style-type: none"> ・「カーリングロボットの「カーリー」はプロ相手の試合で大活躍」に関する英文を読む ・「句読点」(コロン、セミコロン、ダッシュ)の確認 		
	4週	Unit 2:Curly the Curling Robot Can Beat the Pros at Their Own Game	同上		
	5週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチックごみがバニラエッセンスに姿を変える」に関する英文を読む ・「抽象名詞が普通名詞になるとき」の確認 		
	6週	Unit 4:Plastic Waste Can Be Transformed into Vanilla Flavoring	同上		
	7週	復習： Unit1~3 のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。		
	8週	理解度の確認			
	9週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	<ul style="list-style-type: none"> ・「キノコで創る人工レザーは次世代を担うサステナブルなファッション素材」に関する英文を読む ・「前置詞1」の確認 		
	10週	Unit 6:This Mushroom-Based Leather Could Be the Next Sustainable Fashion Material	同上		

後期		11週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	・「科学者はヒトの心臓細胞を使って泳ぐ人工魚を創り出した」に関する英文を読む ・「前置詞 2」の確認	
		12週	Unit 7:Scientists Build an Artificial Fish that Swims on Its Own Using Human Heart Cells	同上	
		13週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	・「まるであくびのように、スマホチェックも次々と伝染する」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認	
		14週	Unit 8:Research Shows Checking Your Phone Is Contagious Like Yawning	同上	
		15週	前期未達成度試験		
		16週	まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。	
	後期	3rdQ	1週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	・「ロボットはゆうゆうと30mジャンプして新記録をつかった」に関する英文を読む ・「数量表現」の確認
			2週	Unit 10:Robot Jumps a Record-Breaking 100 Feet in the Air	同上
			3週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	・「宇宙飛行士の赤血球は宇宙で破壊されている」に関する英文を読む ・「複合名詞」の確認
			4週	Unit 11:Space Is Destroying Astronauts' Red Blood Cells	同上
			5週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	・「マンモスを10年以内に完全復活させる計画が進行中」に関する英文を読む ・「複合形容詞 1」の確認
			6週	Unit 12:These Scientists Plan to Fully Resurrect a Woolly Mammoth within the Decade	同上
			7週	復習： Unit7~9 のグループ・プレゼンテーション	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。
			8週	理解度の確認	
		4thQ	9週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	・「ついに3Dプリンターから初の和牛肉が登場」に関する英文を読む ・「複合名詞 2」の用語の確認
			10週	Unit 13:Scientists Create First 3-D Printed Wagyu Beef	同上
11週			Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce	・「昨年発表された世界初の生体ロボット。今は子孫を残せることに」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 1」の確認	
12週			Unit 14:Scientists Unveiled the World's First Living Robots Last Year. Now, They Can Reproduce	同上	
13週			Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists	・「筆遣いだけでその絵の作者を当ててしまう新技術」に関する英文を読む ・「接頭辞・接尾辞 2」の表現の確認	
14週			Unit 15:New Tech Can Distinguish Brushwork of Different Artists	同上	
15週			学年末達成度試験		
16週			まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの洗い出しをグループごとにプレゼンテーション形式で確認を行う。	

評価割合

	試験	単語テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	20	5	5	100
基礎的能力	70	20	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	5	5	10

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語IIIB (J)	
科目基礎情報						
科目番号	0042		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: GETTING TO KNOW ENGINEERING GENRES, 単語帳: DataBase4500					
担当教員	北澤 佑太, 松島 恒熙					
到達目標						
一定の長さの文章を読み, テーマや著者の主張を的確に理解できること. また, 聞いて概要がつかめること. 内容を考えながら音読できること. 積極的に口頭で英語で応答ができること. テーマについて自分の意見や考えをまとめた英文が書けること. 以上, コミュニケーション能力をさらに伸ばし, 自分の意見や考えを英語で表現できるようになることにより, (F-2) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し, 運用することができる.	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え, 書くことができる.		新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え, 書くことができる.		新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず, 書くこともできない.	
新しい英文法を学び, 文章の意味を日本語訳できるようになり, またその文法を使って英作文が作れる.	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき, またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる.		新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき, またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる.		新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず, またその文法を使った英作文もほとんど作れない.	
パラグラフや文章全体の内容を理解し, それに対して文化的・専門的な情報を収集し, 自分なりの視点から意見を述べられる.	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し, それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる.		パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し, それに対して自分なりの意見を述べられる.		パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず, それに対して意見も述べられない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語によるコミュニケーション能力をさらに伸長することを目的とする. 語彙・文法の習得をもとに5技能(読む・聞く・書く・話す・議論する)の統合的伸張を図る. 英語ⅢAの授業内容とも関連させながら学習していくこと.					
授業の進め方・方法	テキストの各レッスンにおける重要文法事項を確認し, 本文を講読していく. 単語帳の小テストを毎週行う.					
注意点	<成績評価>小テストと試験(60%)や授業プリント等の平常点(40%)の合計100点満点で(F-2)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする. <オフィスアワー>授業の前後に対応する. <先修科目・後修科目>先修科目は英語ⅡA, 英語ⅡB, グローバルエンジニア基礎演習Ⅱ, 後修科目は英語Ⅳとなる. <備考>必ず予習をして授業に臨むこと. 授業に英和辞典を持参すること. 積極的に授業に参加すること.					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション Chapter2 Experiment lets man use his mind to control another person's movements		マインドコントロールの危険性についてについて多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	2週	Chapter2 Experiment lets man use his mind to control another person's movements		マインドコントロールの危険性についてについて多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	3週	Chapter3 Researchers create 'bionic ear'		人工臓器について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	4週	Chapter3 Researchers create 'bionic ear'		人工臓器について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	5週	Chapter4 Ultra minicars take to public roads		超小型EV車について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	6週	Chapter4 Japan, overseas firms battle over wearable tech business		超小型EV車について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.		
	7週	Chapter2 ~ 4のまとめ				
	8週	理解度の確認				
	2ndQ	9週	Chapter 5 Japan, overseas firms battle over wearable tech business		ポータブルデバイスについて多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.	
		10週	Chapter 5 Japan, overseas firms battle over wearable tech business		ポータブルデバイスについて多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.	
		11週	Chapetr 9 A new palm vein ID system creates codes for multiple services		最新の医療検査器具について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.	
		12週	Chapetr 9 A new palm vein ID system creates codes for multiple services		最新の医療検査器具について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.	
		13週	Chapter 11 Nissan rolls out self-driving car at Japanese electronics show		車の自動運転について多角的に理解し, 自分の意見や考えを英語で表現できる.	

		14週	Chapter 11 Nissan rolls out self-driving car at Japanese electronics show	車の自動運転について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		15週	前期のまとめ	
		16週	前期末達成度試験	
後期	3rdQ	1週	Chapter 12 Robots are getting closer to having humanlike abilities and senses	ロボットと人間の関係について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		2週	Chapter 12 Robots are getting closer to having humanlike abilities and senses	ロボットと人間の関係について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		3週	Chapter 15 Scientists now creating millions of organisms from scratch	生命体を作り出すバイオテクノロジーについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		4週	Chapter 15 Scientists now creating millions of organisms from scratch	生命体を作り出すバイオテクノロジーについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		5週	Chapter 17 Firm wants your smartphone to be able to smell	スマートフォンに搭載される嗅覚の機能について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		6週	Chapter 17 Firm wants your smartphone to be able to smell	スマートフォンに搭載される嗅覚の機能について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		7週	Chapter 12, 15, 17 のまとめ	
		8週	理解度の確認	
	4thQ	9週	Chapter 18 Robot wheelchairs would read users minds	高齢化社会を解決するためのテクノロジーについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		10週	Chapter 18 Robot wheelchairs would read users minds	高齢化社会を解決するためのテクノロジーについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		11週	Chapter 19 Kyoto researchers develop DNA software that can halt food fraud	食品偽装を見破るソフトについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		12週	Chapter 19 Kyoto researchers develop DNA software that can halt food fraud	食品偽装を見破るソフトについて多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		13週	Chapter 22 New research aims to teach computers common sense	コンピュータと人間の常識に関する研究について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		14週	Chapter 22 New research aims to teach computers common sense	コンピュータと人間の常識に関する研究について多角的に理解し、自分の意見や考えを英語で表現できる。
		15週	学年末達成度試験	
16週		後期のまとめ		

評価割合

	試験	平常点	小テスト	レポート	合計
総合評価割合	50	40	10	0	100
基礎的能力	20	40	10	0	70
専門的能力	30	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語III B (C)
科目基礎情報					
科目番号	0043	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	Science at Hand, DataBase4500				
担当教員	富永 和元				
到達目標					
<p>本授業の目的は、Smithsonian.comのSmart Newsから認知科学、遺伝子工学、ロボット工学、医療といった幅広い分野の記事を読み、自身の興味関心に結び付けることで「英語を読んで考える力」を鍛えることにある。「モナリザはあなたを見ていなかった」「子どもはロボットをお手本にする」「記憶を強化するフォント」などのニュース記事を読みながら、テクノロジーがどのように我われの日常に関わっているか理解を深める。その上で、テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。また、英語での読解を理解しやすくするため、前置詞、複合名詞、冠詞、数量表現などの復習を行い科学的な英語表現の基礎的な運用力を鍛える。その上で内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理工系分野を中心としたテキストを読み、多種多様な事象やユニークなもの見方に反応して内容の理解を深めるとともに、自分なりの興味関心に結び付けることで「考える力」を鍛えることにある。テキストの書き手の意向や主張を的確に解釈するのに必要な思考力を養い、知的な回路を増強できるよう学習してゆく。また英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的コミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は座学を中心とし、クラス全体で英文解釈をする。 ・適宜、課題、単語テストを課す。 ・Teams, GoogleClassroomを用いて資料配布、課題の提出などを行う。 ・課題は期限に遅れずに提出すること。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00 この時間以外でも必要に応じて来室して下さい 先修科目は英語IIA、英語IIB、グローバルエンジニア基礎演習IIIである。 後修科目は英語IVである。 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション Unit 1Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing	<ul style="list-style-type: none"> ・英語Ⅲの授業・学習方法について説明 ・「ミツバチの羽音を聞くと花の蜜は甘くなる」に関する英文を読む ・「関係代名詞・接続詞thatの省略」の確認 		
	2週	Unit 1Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing	同上		
	3週	Unit 2Sorry, the Mona Lisa Is Not Looking at You	<ul style="list-style-type: none"> ・「モナリザはあなたを見ていなかった」に関する英文を読む ・「句読点（コロ、セミコロ、ダッシュ）」の確認 		
	4週	Unit 2Sorry, the Mona Lisa Is Not Looking at You	同上		
	5週	Unit 3Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night	<ul style="list-style-type: none"> ・「睡眠時間6時間未満が1/3を占めるアメリカ」に関する英文を読む ・「数字の読み方」（整数、少数、分数）の確認 		
	6週	Unit 3Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night	同上		
	7週	復習 Unit1～3	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの確認を行う。		
	8週	理解度の確認			
	9週	Unit 4There's No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間の寿命は限りなく伸びるのか」に関する英文を読む ・「数量表現 1」の確認 		
	10週	Unit 4There's No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough	同上		
	11週	Unit 5Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets	<ul style="list-style-type: none"> ・「中国の空に浮かぶ2つの月」に関する英文を読む ・「数量表現 2」（比較など）の確認 		
	12週	Unit 5Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets	同上		

後期		13週	Unit 6Doctors "Grow" Ear for Transplant in Patient's Forearm	<ul style="list-style-type: none"> ・「患者の腕に移植用の耳を生やす」に関する英文を読む ・「前置詞」の確認
		14週	Unit 6Doctors "Grow" Ear for Transplant in Patient's Forearm	同上
		15週	前期未達成度試験	
		16週	まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの確認を行う。
	3rdQ	1週	Unit 7A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its-Kind "No-Kill" Eggs	<ul style="list-style-type: none"> ・「殺処分なしの鶏卵発売中」に関する英文を読む ・「動名詞」、「現在分詞」の確認
		2週	Unit 7A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its-Kind "No-Kill" Eggs	同上
		3週	Unit 8Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes	<ul style="list-style-type: none"> ・「今ピリ辛トマトを作り出したいわけ」に関する英文を読む ・「複合形容詞」の確認
		4週	Unit 8Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes	同上
		5週	Unit 9Children Are Susceptible to Robot Peer Pressure	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはロボットをお手本にする」に関する英文を読む ・「複合名詞 1」の確認
		6週	Unit 9Children Are Susceptible to Robot Peer Pressure	同上
		7週	復習 Unit7~9	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの確認を行う。
		8週	理解度の確認	
	4thQ	9週	Unit 10British Doctors May Soon Prescribe Art, Music, Dance, Singing Lessons	<ul style="list-style-type: none"> ・「英国の処方箋に登場する芸術」に関する英文を読む ・「複合名詞 2」の用語の確認
		10週	Unit 10British Doctors May Soon Prescribe Art, Music, Dance, Singing Lessons	同上
		11週	Unit 11This Remote Control Vest Trains Rescue Dogs Using Flashlights	<ul style="list-style-type: none"> ・「レスキュー犬はサイバーベストを身に付けて」に関する英文を読む ・「冠詞 1」の確認
		12週	Unit 11This Remote Control Vest Trains Rescue Dogs Using Flashlights	同上
13週		Unit 12Sans Forgetica Is the Typeface You Won't Forget	<ul style="list-style-type: none"> ・「記憶を強化するフォント」に関する英文を読む ・「冠詞 2」の表現の確認 	
14週		Unit 12Sans Forgetica Is the Typeface You Won't Forget	同上	
15週		学年未達成度試験		
16週		まとめと復習	これまでの学習内容を見直し、どのような内容が理解できたか/できなかったかの確認を行う。	

評価割合

	試験	単語テスト等 平常点			合計
総合評価割合	70	30	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	線形代数Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新線形代数 改訂版」大日本図書 / 参考書: 高遠節夫 他「新線形代数問題集 改訂版」大日本図書					
担当教員	濱口 直樹, 小林 茂樹					
到達目標						
線形代数Ⅱにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
線形代数Ⅱにおける内容の理解	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。		各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。		各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	線形変換、固有値と固有ベクトル、行列の対角化等の概念を理解し、計算に習熟するとともに、数学的な表現力や論理的な思考力を高め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を組み合わせる。					
注意点	<成績評価> 定期試験等(80%), 平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。ただし平常点は授業中に行う演習、課題等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00, 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は線形代数Ⅰとなる。 <備考> 線形代数Ⅰの内容を理解し、行列・行列式の計算に習熟していることを前提とする。授業後には必ず復習を行い、練習問題を自分で解くことが大切である。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	行列式の図形的意味	行列式と面積、体積の関係を理解する。線形独立性の行列式による判定法を理解する。		
		2週	外積	外積の定義を理解する。		
		3週	線形変換の定義	線形変換の定義と意味を理解する。		
		4週	線形変換の基本的性質	線形変換の基本的な性質を理解する。		
		5週	合成変換と逆変換	行列と線形変換の関係を理解し合成変換、逆変換に対応する概念を理解する。		
		6週	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換および行列に対応する概念を理解する。		
		7週	直交行列と直交変換	直交変換および行列に対応する概念を理解する。		
		8週	演習	理解度の確認を行う。		
	2ndQ	9週	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルの定義を理解する。		
		10週	固有値と固有ベクトルの計算	2次と3次の正方行列について固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
		11週	行列の対角化	固有値と固有ベクトルを用いて行列を対角化することができる。		
		12週	対角化可能な条件	対角化可能な条件について理解する。		
		13週	対称行列の直交行列による対角化	シュミットの直交化法を用いて対称行列の直交行列による対角化ができる。		
		14週	対角化の応用	2次曲線の標準形を求めることができる。		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ 改訂版」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ問題集 改訂版」大日本図書				
担当教員	佐久間 敏幸, 西信 洋和				
到達目標					
関数の展開, 偏微分, 重積分に関する基本的事項と標準的な計算方法について理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで, 学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
関数の展開, 偏微分, 重積分に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し, 応用問題を解くことができる。		各単元における基本的な計算方法を理解し, 標準問題を解くことができる。		各単元における基本問題を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	偏微分, 重積分の各分野の系統的な理解や基礎的概念の理解を通して, 知識の習得と技能の習熟を図る。また, 数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い, 現象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。				
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし, 演習問題や課題と組み合わせる。1, 2年生学習済みの分野についても, 必要に応じて復習を加える。				
注意点	<p><成績評価> 定期試験等 (80%), 平常点 (20%) の合計 100 点満点で (C-1) を評価し, 合計の 6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>ただし, 平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。</p> <p><オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00 数学科の各教員が対応します。</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は微分積分Iと線形代数I, 後修科目はベクトル解析, フーリエ解析, 複素関数論, および確率統計IIとなる。</p> <p><備考> 1変数関数の微分と積分の計算ができることを前提とする。授業後には必ず復習を行い, 教科書の問いや練習問題等を自分で解いてみるのが大切である。</p> <p>(関連科目) 微分積分IIB</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	多項式による近似(1)	基本的な関数について, 1次2次近似式を求めることができる。	
		2週	多項式による近似(2)	n次近似式を求めることができる。ランダウ記号の意味を理解し, 1変数関数の極値を調べることができる。	
		3週	数列の極限	基本的な数列の極限を求めることができる。	
		4週	級数(1)	簡単な級数の収束・発散を調べ, 和を求めることができる。	
		5週	級数(2)	等比級数の具体的な問題を解くことができる。	
		6週	べき級数とマクローリン展開	基本的な関数のマクローリン展開・テーラー展開を求めることができる。	
		7週	オイラーの公式	オイラーの公式を理解し, 複素数の計算に応用できる。	
		8週	演習	標準的な問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	2変数関数	2変数関数の意味とそのグラフについて理解できる。	
		10週	偏導関数	偏導関数および偏微分係数を求めることができる。	
		11週	全微分	全微分および接平面の方程式を求めることができる。	
		12週	合成関数の微分法	2変数関数について, 合成関数の微分法を適用できる。	
		13週	高次偏導関数	第2次偏導関数を求めることができる。	
		14週	極大・極小	極値の判定方法を理解し, 関数の極値を求めることができる。	
		15週	演習	標準的な問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	陰関数の微分法	陰関数とその微分法を理解できる。	
		2週	条件つき極値問題	条件つき極値問題を理解し, 基本的な問題を解くことができる。	
		3週	包絡線	包絡線について理解し, その方程式を求めることができる。	
		4週	2重積分の定義(1)	2重積分の定義が理解できる。	
		5週	2重積分の定義(2) 2重積分の計算(1)	2重積分の性質が理解できる。累次積分の計算方法が理解できる。	
		6週	2重積分の計算(2)	一般の領域における累次積分を計算することができる。	
		7週	2重積分の計算(3)	積分順序を変更することができる。立体の体積をもとめることができる。	

4thQ	8週	演習	標準的な問題を解くことができる。
	9週	極座標による2重積分(1)	極座標変換の意味が理解でき、簡単な2重積分の計算ができる。
	10週	極座標による2重積分(2) 変数変換(1)	極座標変換を用いて様々な問題を解くことができる。 変数変換の方法が理解できる。
	11週	変数変換(2)	一般の変数変換による2重積分の計算ができる。
	12週	広義積分	広義積分の意味を理解し、簡単な問題を解くことができる。
	13週	2重積分のいろいろな応用(1)	曲面積を求めることができる。
	14週	2重積分のいろいろな応用(2)	図形の重心を求めることができる。
	15週	学年末達成度試験	
16週	まとめと総復習	1年間のまとめを行う。	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	微分積分Ⅱ B	
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ 改訂版」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ問題集 改訂版」大日本図書					
担当教員	小原 大樹, 平戸 良弘, 濱口 直樹					
到達目標						
微分方程式に関する基本的事項と標準的な計算方法について理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
微分方程式に関する事項の理解	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。		各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。		各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	微分方程式の基礎的概念の理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図る。また、数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い、現象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を組み合わせて進める。					
注意点	<p><成績評価> 定期試験等 (80%)、平常点 (20%) の合計 100 点満点で (C-1) を評価し、合計の 6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>ただし、平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。</p> <p><オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00 数学科の各教員が対応します。</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は微分積分Ⅰと線形代数Ⅰ、後修科目はベクトル解析、フーリエ解析、複素関数論、および確率統計Ⅱとなる。</p> <p><備考> 1変数関数の微分と積分の計算ができることを前提とする。授業後には必ず復習を行い、教科書の問いや練習問題等を自分で解いてみるのが大切である。</p> <p>(関連科目) 微分積分ⅡA</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	微分方程式の意味	簡単な微分方程式をつくることができる。		
		2週	微分方程式の解	微分方程式の一般解・特殊解について理解できる。		
		3週	変数分離形	基本的な変数分離形の微分方程式の一般解を求めることができる。		
		4週	1階線形微分方程式	非斉次1階線形微分方程式の一般解を定数変化法を用いて求めることができる。		
		5週	同次形	基本的な同次形の微分方程式の一般解を求めることができる。		
		6週	2階微分方程式とその解	2階微分方程式とその一般解・特殊解について理解できる。		
		7週	2階線形微分方程式	関数が線形独立であるかロンスキアンを用いて調べることができる。2階線形微分方程式の一般解の形について理解できる。		
		8週	演習	標準的な問題を解くことができる。		
	4thQ	9週	定数係数斉次線形微分方程式(1)	特性方程式の解により、一般解の形が分類されることが理解できる。		
		10週	定数係数斉次線形微分方程式(2)	定数係数斉次線形微分方程式の一般解を求めることができる。		
		11週	定数係数非斉次線形微分方程式(1)	具体的な例から、定数係数非斉次線形微分方程式の特殊解を予想することができる。		
		12週	定数係数非斉次線形微分方程式(2)	標準的な定数係数非斉次線形微分方程式の一般解を求めることができる。		
		13週	いろいろな線形微分方程式	連立微分方程式や定数係数でない線形微分方程式のうち、基本的なものについて一般解を求めることができる。		
		14週	線形でない2階微分方程式	線形でない2階微分方程式のうち、典型的なものについて一般解を求めることができる。		
		15週	学年末達成度試験			
		16週	まとめと総復習	半年間のまとめを行う。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	確率統計 I	
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新確率統計 改訂版」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新確率統計問題集 改訂版」大日本図書					
担当教員	濱口 直樹, 小林 茂樹					
到達目標						
確率統計Iにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
確率統計 I における内容の理解	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。		各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。		各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	確率、統計の系統的な理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図り、数学的論理を通して思考力、表現力、想像力を養う。事象、現象を数学的にとらえ、記述し、処理することにより問題を解決する能力を養う。					
授業の進め方・方法	・ 授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を組み合わせる。					
注意点	<成績評価> 定期試験等(80%)、平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。ただし平常点は授業中に行う演習、課題等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30~15:00 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は微分積分I、後修科目は確率統計IIとなる。 <備考> 授業後には必ず復習を行い、練習問題を自分で解くことが大切である。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	確率の定義		確率の定義を理解し、それを用いて問題を解くことができる。	
		2週	確率の基本性質		排反事象の確率、余事象の確率、確率の加法定理等を理解し、それを用いて問題を解くことができる。	
		3週	期待値		期待値を求めることができる。	
		4週	条件つき確率と乗法定理		条件つき確率、確率の乗法定理の意味を理解し、それを用いて問題を解くことができる。	
		5週	事象の独立		事象の独立について理解ができる。	
		6週	反復試行		反復試行の確率を求めることができる。	
		7週	ベイズの定理		ベイズの定理を用いて問題を解くことができる。	
		8週	度数分布		度数分布表をつくることができる。	
	4thQ	9週	代表値、散布度		データの平均、中央値、モードを求めることができる。データの分散、標準偏差を求めることができる。	
		10週	相関		相関係数を理解し、2つの変数の関係を調べることができる。	
		11週	回帰直線		回帰直線の方程式を求めることができる。	
		12週	確率変数と確率分布		確率変数について理解し、その平均や分散を求めることができる。	
		13週	二項分布		二項分布を用いて問題を解くことができる。	
		14週	ポアソン分布		ポアソン分布を用いて問題を解くことができる。	
		15週	学年末達成度試験			
		16週	まとめと総復習		半年のまとめを行う	
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅳ(機械)
科目基礎情報					
科目番号	0049		科目区分	一般/必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房)				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
実用的文章を書く力	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。
発表資料を作成する力	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。
口頭発表をする力	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。 ・課題は、期限内に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>				
注意点	<p><成績評価>・小論文(50%)・その他課題(50%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><オフィスアワー>木曜日 16:00 ~ 17:00, 一般科棟1階。</p> <p><先修科目・後修科目>先修科目は国語Ⅲ</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。	
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。	
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。	
		4週	メールの書き方	場面に応じた適切なメールを書くことができる。	
		5週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。	
		6週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。	
		7週	小論文③推敲	前週に書いた小論文をよりよく書き直すことができる。	
		8週	プレゼンテーション①解説	効果的なプレゼンテーションの概要を理解することができる。	
	4thQ	9週	プレゼンテーション②実習	プレゼンテーションの資料を作成することができる。	
		10週	プレゼンテーション③発表1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		11週	プレゼンテーション④発表2回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		12週	プレゼンテーション⑤発表3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		13週	プレゼンテーション⑥発表4回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		14週	プレゼンテーション⑦発表5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		15週	まとめ	これまでの学習内容を総括し、反省する。	
		16週			
評価割合					
		小論文	プレゼンテーション	合計	
総合評価割合		50	50	100	
配点		50	50	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語Ⅳ (電気)
科目基礎情報					
科目番号	0050	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教材はプリントなどで配布する				
担当教員	牧 千夏				
到達目標					
・国語で論理的かつ効果的に情報や意思などを伝達することができることによって、(A)-1の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
正しい日本語への理解	正しい日本語の使い方を理解し、日常生活の中で実践することができる。	おおむね正しい日本語の使い方を理解し、使うことができる。	正しい日本語を理解し、使うことができない。		
伝わる文章を書く力	論理的で文法的に間違いのない文章を書くことができる。	おおむね論理的で文法的に間違いのない文章を書くことができる。	ねじれや文法的な間違いの多い文章を書いてしまう。		
人前で話して伝える力	他人へ向けて伝える発表をし、質問などに的確に答えることができる。	他人へ向けて伝える発表をし、質問などにおおむね答えることができる。	他人へ向けて伝える発表ができず、質問などに答えることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語表現に関する講義と実習を通じて、文法的に正しく、かつ説得力のある内容の文章を書けるようにする。一部、口頭での発表も行うことで、他人の前で自分の意見を述べ、質問に適確に答える力を養う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容のほかに、小論文の作成などを課題として課す。 ・課題は授業後速やかにこなし、授業内容の把握と理解に努めてもらいたい。 				
注意点	<p><成績評価> プレ小論文 5%・本番小論文 35% 自己PR 25% 志望動機 25% メール10%の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><オフィスアワー> 質問については授業後に適宜対応する。</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は「国語Ⅲ」</p> <p><備考> 本科目は、学習単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要です。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス/アンケート/小論文って何?/プレ小論文を書く	本科目の目的や概要などについて理解する。	
		2週	敬語/敬語クイズ	敬語について理解できる。	
		3週	敬語演習/敬語で世間話	敬語について理解できる。	
		4週	敬語で世間話/並列/プレ小論文添削	敬語について理解できる。	
		5週	表記/連体修飾節を短くしよう	正しい表記で小論文を書ける。	
		6週	小論文でどんなことを書きたい?/グループ決めと発表	正しい表記で小論文を書ける。	
		7週	アウトラインとは/チーム分け/アウトライン作り	アウトラインについて理解できる。	
		8週	パラグラフライティング/アウトライン批評	アウトラインについて理解できる。	
	4thQ	9週	小論文を書く	正しい表記で小論文を書ける。	
		10週	小論文の添削、自己PRの書き方	小論文を添削できる。	
		11週	自己PRを書く	自己PRを書くことができる。	
		12週	説明の仕方(パラグラフライティング)、自己PRから想定される質問を作る、志望動機の書き方	自己PRを書くことができる。	
		13週	志望動機を書く	志望動機を書ける。	
		14週	メールの書き方	正しいメールを書くことができる。	
		15週	グループディスカッション	グループディスカッションをできる。	
		16週			
評価割合					
	小論文	実用的な文章	合計		
総合評価割合	40	60	100		
配点	40	60	100		

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅳ(制御)
科目基礎情報					
科目番号	0051		科目区分	一般/必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『大学生のための日本語表現実践ノート』(風間書房), プリントなど				
担当教員	藤原 崇雅				
到達目標					
・国語で論理的かつ効果的に情報や意思などを伝達することができることによって, (A)-1の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。		基本的な語彙を理解し使用できる。		基本的な語彙力がない。
書く力	説得力をもった文章を書くことができる。		自らの考えや思いを伝える文章を書くことができる。		自らの考えや思いを伝える文章を書くことができない。
話す力	説得力のある話し方ができる。		自らの考えや思いを伝える話し方ができる。		自らの考えや思いを伝える話し方ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	情報や意思などを, 論理的かつ効果的に伝達する能力と, 主体的な表現意欲とを培う。				
授業の進め方・方法	・授業は講義も行うが, 課題の比重が大きい。 ・提出物などは, 期限に遅れず提出すること。				
注意点	<成績評価>・小テスト(20%)・プレゼンテーション(20%)・実用的な文章(20%)・小論文(20%)・口頭発表(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業の後の休憩時間に非常勤講師控え室等で対応する。 <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅲ <備考> 本科目は, 学習単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要です。なお, 小論文はパソコンで作成する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。	
		2週	ことわざ・故事成語・慣用句	類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	
		3週	敬語・敬意表現	敬語と敬意表現の種類について理解できる。	
		4週	実用的な文章の書き方①	実用的な文章(手紙・メールなど)を, 相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		5週	実用的な文章の書き方②	実用的な文章(手紙・メールなど)を, 相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		6週	実用的な文章の書き方③	実用的な文章(手紙・メールなど)を, 相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		7週	プレゼンテーションと議論①	課題に応じ, 根拠に基づいて議論できる。 相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	
		8週	プレゼンテーションと議論②	課題に応じ, 根拠に基づいて議論できる。 相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	
	4thQ	9週	プレゼンテーションと議論③	課題に応じ, 根拠に基づいて議論できる。 相手の立場や考えを尊重しつつ, 議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	
		10週	小論文の書き方①	報告・論文を, 整理した情報を基にして, 主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し, 作成することができる。	
		11週	小論文の書き方②	報告・論文を, 整理した情報を基にして, 主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し, 作成することができる。	
		12週	小論文の書き方③	報告・論文を, 整理した情報を基にして, 主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し, 作成することができる。	
		13週	口頭発表①	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。	
		14週	口頭発表②	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。	
		15週	口頭発表③	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを, 的確に口頭発表することができる。	
		16週			
評価割合					

	小テスト	プレゼンテーション	実用的な文章	小論文	口頭発表	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	100
配点	20	20	20	20	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅳ(情報)	
科目基礎情報						
科目番号	0052		科目区分	一般/必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『大学生のための日本語表現実践ノート』(風間書房), プリントなど					
担当教員	小池 博明					
到達目標						
・国語で論理的かつ効果的に情報や意思などを伝達することができることによって, (A)-1の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。		基本的な語彙を理解し使用できる。		基本的な語彙力がない。	
書く力	説得力をもった文章を書くことができる。		自らの考えや思いを伝える文章を書くことができる。		自らの考えや思いを伝える文章を書くことができない。	
話す力	説得力のある話し方ができる。		自らの考えや思いを伝える話し方ができる。		自らの考えや思いを伝える話し方ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	情報や意思などを, 論理的かつ効果的に伝達する能力と, 主体的な表現意欲とを培う。					
授業の進め方・方法	・授業は講義も行うが, 課題の比重が大きい。 ・提出物などは, 期限内に遅れず提出すること。					
注意点	<成績評価>・語彙力試験(25%)・メール(10%)・小論文(40%)・プレゼンテーション(25%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー>放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3階。この時間にとらわれず必要に応じて来室可。 <先修科目・後修科目>先修科目は国語Ⅲ <備考>本科目は, 学習単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要です。なお, 小論文はパソコンで作成する。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	ことわざ・慣用句	よく使われることわざ, 慣用句について理解できる。		
		3週	敬語①	敬語の種類について理解できる。		
		4週	敬語②	敬語の用法について理解できる。		
		5週	敬語③	敬意表現について理解できる。		
		6週	・語彙力試験 ・メールの書き方	・これまで学習してきた語彙力などについての試験。 ・一般的なメールを書くことができる。		
		7週	小論文の書き方①	1文を短くし, 正確でわかりやすい表現ができる。		
		8週	小論文の書き方②	書き言葉と話し言葉の違いを理解する。		
	4thQ	9週	小論文の書き方③	文章構成の基本を理解する。		
		10週	小論文を書く	これまで学習したことを踏まえて, 与えられた資料や自ら収集した資料を活用して, 小論文をとおして自分の意見を正確にわかりやすく相手に伝えることができる。		
		11週	プレゼンテーションの仕方	多くの人を相手に話す際, 自らの意見を効果的に伝えるために留意する点について理解できる		
		12週	プレゼンテーションの原稿作成	興味ある科学技術などについて, 適切な情報を収集し, 原稿を書くことができる。		
		13週	プレゼンテーション①	・多くの人を前に, 適切な表現でプレゼンテーションをすることができる。 ・他者の話を理解し, 意見を述べることができる。		
		14週	プレゼンテーション②	・多くの人を前に, 適切な表現でプレゼンテーションをすることができる。 ・他者の話を理解し, 意見を述べることができる。		
		15週	プレゼンテーション③	・多くの人を前に, 適切な表現でプレゼンテーションをすることができる。 ・他者の話を理解し, 意見を述べることができる。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	メール	小論文	プレゼンテーション	合計
総合評価割合	0	25	10	40	25	100
配点	0	25	10	40	25	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	国語Ⅳ(環境)
科目基礎情報					
科目番号	0053		科目区分	一般/必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房)				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
実用的文章を書く力	論理的で実用的な文章を書くことができる。	おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。	論理的で実用的な文章を書くことができない。		
発表資料を作成する力	効果的な発表資料を作成できる。	おおむね効果的な発表資料を作成できる。	効果的な発表資料を作成できない。		
口頭発表をする力	的確な口頭発表をすることができる。	おおむね的確な口頭発表をすることができる。	的確な口頭発表をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。 ・課題は、期限内に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>				
注意点	<p><成績評価>・小論文(50%)・その他課題(50%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p><オフィスアワー>木曜日 16:00 ~ 17:00, 一般科棟1階。</p> <p><先修科目・後修科目>先修科目は国語Ⅲ</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。	
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。	
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。	
		4週	メールの書き方	場面に応じた適切なメールを書くことができる。	
		5週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。	
		6週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。	
		7週	小論文③推敲	前週に書いた小論文をよりよく書き直すことができる。	
		8週	プレゼンテーション①解説	効果的なプレゼンテーションの概要を理解することができる。	
	4thQ	9週	プレゼンテーション②実習	プレゼンテーションの資料を作成することができる。	
		10週	プレゼンテーション③発表1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		11週	プレゼンテーション④発表2回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		12週	プレゼンテーション⑤発表3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		13週	プレゼンテーション⑥発表4回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		14週	プレゼンテーション⑦発表5回目	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表に基づいて質疑応答をすることができる。 	
		15週	まとめ	これまでの学習内容を総括し、反省する。	
		16週			
評価割合					
		小論文	プレゼンテーション	合計	
総合評価割合		50	50	100	
配点		50	50	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文学	
科目基礎情報						
科目番号	0054	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	テキストが品切れのため、プリントを配布する。低学年で使用した国語便覧。					
担当教員	小池 博明					
到達目標						
我が国の文学の最高傑作である『源氏物語』について、その時代的・文化的背景と関連づけておおよ理解することができる。また、『源氏物語』について、自らの考えを述べることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
『源氏物語』の理解	『源氏物語』について、注釈書や関連資料を参考にしながらおおよ理解できる。また、『源氏物語』について、自らの考えを述べることができる。	『源氏物語』について、注釈書や関連資料を使って、理解しようとするすることができる。	『源氏物語』が理解できない。			
『源氏物語』に関連する、日本文化の理解	『源氏物語』を、その時代的・文化的背景に関連づけて、おおよ理解できる。	『源氏物語』の時代的・文化的背景をおおよ理解できる。	『源氏物語』の背景が理解できない。			
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	我が国の最高の文学作品と位置づけられる『源氏物語』を、現代語訳の付いた注釈書や関連資料を参考にしながらじっくりと読み味わう。作品の内容から、平安時代の人々の考え方、感じ方や社会のあり方などを知り、そこから受講者各人に様々なことを感じたり、考えたりしてもらいたいので、文法事項は内容や表現などに深く関わる場合のみ触れることとする。 今年度は、物語の発端となる桐壺巻（冒頭部分）と、ヒロイン若紫の出会いや光源氏と藤壺との密会など、物語全体に大きな影響を与える若紫巻を取り上げる予定である（なお、受講者との話し合いで、他の巻を取り上げる場合もある）。					
授業の進め方・方法	現代における『源氏物語』の代表的注釈書である『古典セクション 源氏物語』を、ときに教授者の私見も交えつつ講義する。講義形式ではあるが、できるだけ受講者と対話して進めていきたい。なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。					
注意点	〈成績評価〉レポート（70%）、課題など（30%）の合計100点満点で（A-1）を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 〈オフィスアワー〉16：00～17：00、管理・一般科棟3F国語教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください。 〈先修科目〉国語Ⅱ					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	ガイダンス	授業を受けるにあたって、必要な事柄を理解する。			
	2週	『源氏物語』概説	『源氏物語』に関する基礎知識を理解する。			
	3週	桐壺①	・桐壺のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕帝の桐壺更衣への御おぼえまばゆし」「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」（前半）が理解できる。			
	4週	桐壺②	「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」（後半）、「〔3〕若宮三歳になり、袴着の儀式を行う」が理解できる。			
	5週	桐壺③	「〔4〕更衣病む、帝に別れて退出、命果てる」「〔5〕無心の若宮、更衣の里に退出する」が理解できる。			
	6週	若紫（紫の上との出会い）①	・若紫巻のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕源氏、瘧病（わらわやみ）をわずらい、北山の聖を訪れる」が理解できる。			
	7週	若紫（紫の上との出会い）②	「〔2〕源氏、なにがし僧都の坊に女人を見る」「〔4〕源氏、紫の上を見だして恋慕する」（前半）が理解できる。			
	8週	若紫（紫の上との出会い）③	「〔4〕源氏、紫の上を見だして恋慕する」（後半）、「〔6〕源氏、紫の上の素性を聞き僧都に所望する」（前半）が理解できる。			
	2ndQ	9週	若紫（紫の上との出会い）④	「〔6〕源氏、紫の上の素性を聞き僧都に所望する」（後半）、「〔7〕源氏、尼君に意中を訴え、拒まれる」（前半）が理解できる。		
		10週	若紫（紫の上との出会い）⑤	「〔7〕源氏、尼君に意中を訴え、拒まれる」（後半）が理解できる。		
		11週	若紫（紫の上との出会い）⑥	「〔10〕源氏、公達と帰還、紫の上、源氏を慕う」が理解できる。		

	12週	若紫（紫の上との出会い）⑦	「〔11〕源氏、葵の上と不和 紫の上を思う」が理解できる。
	13週	若紫（藤壺との密通）①	「〔13〕藤壺、宮中を退出 源氏、藤壺と逢う」が理解できる。
	14週	若紫（藤壺との密通）②	「〔14〕源氏・藤壺の苦悩 藤壺解任、宮中に帰参」（前半）が理解できる。
	15週	若紫（藤壺との密通）③	「〔14〕源氏・藤壺の苦悩 藤壺解任、宮中に帰参」（後半）が理解できる。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	30	70	0	100
配点	0	0	30	70	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	西洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0055	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	『最新世界史図説タバストリー』(帝国書院)を持参すること。					
担当教員	久保田 和男					
到達目標						
西洋史上の大きな変化を理解できていること。西洋の歴史地理的な基本的な知識を理解していること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
・西洋古代史について説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・西洋中世史について、ユダヤ人との関連で説明できる。	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・西洋近代史・現代史について、中東問題と関連つけて起源を説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中東・欧州の歴史を概観する ・宗教問題と社会について考える ・ユダヤ人の歴史について考え、中東問題の起源を知る 					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とする ・適宜、レポート課題などを課すので、期限内に遅れず提出すること <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績(80%)と、授業への取り組む姿勢(20% ノート点検で判断する)で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものとして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00~17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	・西アジア、北アフリカ・ヨーロッパの風土について理解する。	・西アジア、北アフリカ・ヨーロッパの気候や地形について説明できる。		
		2週	・アケメネス朝ペルシャ帝国と宗教：ゾロアスター教とユダヤ教	・ゾロアスター教やユダヤ教についてその成立の背景を中心に理解する。		
		3週	・ギリシャ文明について	・ペルシャ戦争やペロポネソス戦争などをアテネやスパルタの政治体制と併せて説明できる。		
		4週	・ギリシャ哲学	・ギリシャ哲学について考える		
		5週	・ヘレニズム時代と諸宗教	・アレクサンドロス大王の東方遠征の意味を知る。		
		6週	・ローマ共和国 ローマ帝国の成立	・共和政時代のローマの発展と理解する。		
		7週	・ローマ帝国の衰退とキリスト教。三位一体説。異端と正統。	・ローマ帝国とキリスト教徒の関係を理解する。		
		8週	ギリシャ・ローマ文明と、キリスト教の関係について確認する	理解度のチェックを行う。		
	2ndQ	9週	・ゲルマン民族とキリスト教。カール大帝とローマ教皇	・西ヨーロッパ世界の成立を宗教面から理解する。		
		10週	・イスラム教の成立と、イスラム教との生活	・イスラム教について一定の理解をもつ。		
		11週	・十字軍の開始と展開	・イスラム圏にキリスト教徒に対する敵意を芽生えさせた原因を理解する。		
		12週	・ヨーロッパにおける主権国家体制とユダヤ人	主権国家の成立と内容からユダヤ人迫害を理解する。		
		13週	ユダヤ人と近代ヨーロッパ	近代ヨーロッパ世界の成立による、人権とナショナリズムをユダヤ人問題から考える。		
		14週	・中東紛争	・イスラエルの建国に始まる深刻な対立について概要を知る。		
		15週	試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	東洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0056	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	『最新世界史図説タベストーリー』(帝国書院)を持参すること。参考書: 東野治之『遣唐使』(岩波新書) 榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』(講談社選書メチエ) 五味文彦『大仏再建』(講談社選書メチエ) その他は、教場で紹介する。					
担当教員	久保田 和男					
到達目標						
東アジア海域交流史を理解できていること。東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できていること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
前近代史の日中交流についての諸問題を説明できる。	説明できる	部分的に説明できる	あまり説明できない			
東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できている	基本的に理解出来ている	部分的に理解出来る	全く理解出来ていない			
東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える	しっかりと考えている	日本文化の成立について部分的に考えている	全く考えていない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> 前近代史の日中交流についての諸問題を検討する。 東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える。 					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法は講義を中心とする。 適宜、レポート課題などを課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績(80%)と、授業への取り組み姿勢(20% ノート点検で判断する)で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものとして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00~17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	・ オリエンテーション	・ 東アジアの地理を理解する。		
		2週	・ 古代中国文明と東アジア	・ 中国文明と日本の新石器時代の関わりを理解する。		
		3週	・ 漢代の東アジアと倭国	・ 倭国の形成を中国歴史書から理解する。		
		4週	・ 三国時代と卑弥呼	・ 卑弥呼はなぜ使いを送ったのか、なぜ魏は卑弥呼を王に任じたのか理解する。		
		5週	・ 南北朝時代の東アジア・倭の五王	・ 仏教の中国伝来と朝鮮・日本への伝播を理解する。		
		6週	・ 遣唐使と「日本」の成立	・ 「日本」という国号や「天皇」という称号の生まれた背景を遣唐使の時代を通じて考える。		
		7週	・ 東アジアの変動と遣唐使の中止	・ 遣唐使はなぜ中止されたのか理解する。日本と宋との貿易関係を理解する。		
		8週	古代東アジア国際交流への理解を確認する	理解度チェック		
	4thQ	9週	・ 五代十国時代の意義	・ 唐宋変革における五代十国時代の意義を考える。		
		10週	・ 北宋の文治政治と経済	・ 宋都開封の歴史地理的な意義を考える。		
		11週	・ 南宋における対外貿易	・ 奈良の大仏再建における日宋貿易の役割を中心に考える。		
		12週	・ 元寇とその東アジア的な意義	・ 元寇に関わった高麗や南宋そして鎌倉幕府を通じて、大元帝国への理解を深める。		
		13週	・ 倭寇と日明貿易	・ 明朝の朝貢貿易体制と倭寇の発生について理解する。		
		14週	・ 鎖国と日中の貿易関係	・ 江戸時代の対外政策について理解する。		
		15週	・ 試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本社会史	
科目基礎情報						
科目番号	0057		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 参考書: 授業で随時紹介する.					
担当教員	二星 潤					
到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で, 論述問題をまとめることができることにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる.	資料の意義を解説することができる.		資料を正しく読むことができ, 内容も説明できる.		資料の内容を説明できない.	
2. 授業の内容について, 論述問題をまとめることができる.	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる.		歴史的な諸問題について, 授業の内容をまとめて論述できる.		授業の内容について, 論述できない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	近代以前の日本社会の特色についての認識を深めることにより, 歴史的思考力を培う.					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は講義を中心とする. ・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること. <p>なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.</p>					
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする. <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会となる.</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会史の学び方	日本社会史を学ぶ目的を考える.		
		2週	縄文時代の社会	考古資料から縄文時代の社会を考察する.		
		3週	農耕社会の成立	水稲耕作の開始が日本社会に与えた影響を知る.		
		4週	平城京と地方社会	律令体制の整備と地方社会の関わりを考察する.		
		5週	平安貴族の社会	平安貴族の特色について理解する.		
		6週	古代仏教と社会	古代仏教が日本社会に与えた影響を知る.		
		7週	院政期の社会	院政期の社会の特徴を理解する.		
		8週	中世の武士社会	中世の武士の生活について考察する.		
	2ndQ	9週	中世社会の変動	商工業の発達による社会の変動を知る.		
		10週	武家社会の成長	諸産業の発達による社会の多様な展開を理解する.		
		11週	近世の社会	近世の社会の特徴を理解する.		
		12週	近世の都市	近世の都市構造について考察する.		
		13週	近世の地域社会	近世の地域社会の運営について知る.		
		14週	近世社会の変容	近世社会の変容が与えた影響を考察する.		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	授業のまとめ	日本社会とは何かを考える.		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文化史	
科目基礎情報						
科目番号	0058		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 参考書: 授業で随時紹介する.					
担当教員	二星 潤					
到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で, 論述問題をまとめることができることにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1, 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる.	資料の意義を解説することができる.		資料を正しく読むことができ, 内容も説明できる.		資料の内容を説明できない.	
2, 授業の内容について, 論述問題をまとめることができる.	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる.		歴史的な諸問題について, 授業の内容をまとめて論述できる.		授業の内容について, 論述できない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本の文化の特色についての認識を深めることにより, 歴史的思考力を培う.					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は講義を中心とする. ・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること. <p>なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.</p>					
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする. <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会となる.</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	日本文化史の学び方	日本文化史を学ぶ目的を理解する.		
		2週	日本文化のはじまり	日本文化の発生を考察する.		
		3週	縄文文化と弥生文化	考古資料から縄文・弥生文化の形成を考察する.		
		4週	古墳文化	古墳の変化から社会の変容をとらえる.		
		5週	飛鳥文化と白鳳文化	大陸文化の受容を理解する.		
		6週	天平文化	天平文化における政治性と国際性を理解する.		
		7週	唐風文化と国風文化	唐風文化と国風文化を比較する.		
		8週	鎌倉文化	鎌倉文化の新しい気運を理解する.		
	4thQ	9週	室町文化	武家文化と公家文化の関係について考察する.		
		10週	桃山文化と南蛮文化	文化の持つ幅広い国際性を理解する.		
		11週	元禄文化	経済の発展と文化の関連を考察する.		
		12週	化政文化	文化における近代化の芽生えを理解する.		
		13週	近代文化	近代文化の二元性をとらえる.		
		14週	市民文化	都市化や国民生活の変化を理解する.		
		15週	学年末達成度試験			
		16週	授業のまとめ	日本文化とは何かを考える.		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	倫理学
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	指定しない。毎回資料を配布する。				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
倫理学の基本的な考え方を理解した上で、技術とは何か、技術者はいかにあるべきか、技術者がもつべき倫理とは何かを考察できるようになること、科学技術に対して自ら倫理的に探究できる。これをもって、学習・教育目標 (B-1) および (B-2) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
倫理学の基本的な考え方について理解できる。	倫理学の基本的な考え方について、先哲の思想を踏まえて十分に理解している。	倫理学の基本的な考え方について、おおむね理解している。	倫理学の基本的な考え方について理解していない。		
科学技術が自然環境や人間社会に与える影響や、それに伴う倫理的課題について考えることができる。	科学技術の社会的影響や倫理的課題について論理的に十分に考察できる。	科学技術の社会的影響や倫理的課題を、おおむね考察できる。	科学技術の社会的影響や倫理的課題を考えられていない。		
技術者はいかにあるべきかについて主体的に探究することができる。	技術者はいかにあるべきかについて、倫理学および科学技術の特質の両面から深く探究できる。	技術者はいかにあるべきかについて、おおむね探究できる。	技術者はいかにあるべきかについて探究できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	義務論や功利主義、徳倫理など倫理学の基本的な立場を事例を踏まえて考察した上で、科学技術の軍事利用、科学技術の自然環境や社会への影響、技術者の社会的責任など科学技術を倫理的に考えていく。				
授業の進め方・方法	<p>倫理学とは、規範や価値に関する哲学的探究である。「…すべき」や「…しなければならない」とは、いったい何を意味しているのだろうか。</p> <p>倫理的な問題はどこにでもあふれている。場当たりのではない、確固たる思想をもって倫理的な判断をする姿勢を身につけてもらいたいと思っている。</p> <p>本授業は、「技術者倫理」を主題とするが、狭義の技術者倫理のみならず、様々な哲学観や社会観を学ぶことを通して、自ら考え抜くことを重視する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とするが、質問に答えてもらったり、周囲と対話しながら自らの考えを表明する機会を設けるので、積極的な姿勢で受講してもらいたい。なお事実ではなく価値を扱うという倫理学の性質上、教員の言明をも相対化しつつ自ら考える姿勢が求められる。 ・授業では適宜、「ケーススタディ」を活用する。事例について主体的に考察してもらいたい。 ・授業では毎回、コメントを求める。次の授業でそれに適宜応答する。そのコメントを通して授業が膨らんでいくような、そういう授業が望ましい授業だと、授業者は考えている。 ・適宜、課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>				
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%)、平常点 (30%) で (B-1) および (B-2) を評価し、6割以上の得点で合格とする。平常点は、課題レポート等によって評価する。</p> <p><オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は世界史、日本史および現代社会</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	技術者倫理を学ぶ意義	倫理学とは何か、なぜ技術者に倫理学が必要なのかを理解する。	
		2週	科学技術とは何か	科学技術の本質、科学技術の発達の思想史的背景を理解する。	
		3週	価値とは何か (ソクラテス、プラトンの倫理学)	ソクラテスおよびプラトンを手掛かりに、よく生きること、正義について理解する。	
		4週	徳とは何か、正義とは何か (アリストテレスの倫理学)	アリストテレスを手掛かりに、徳や正義について理解する。	
		5週	義務とは何か (カントの倫理学)	カント倫理学の基礎を理解し、義務論的倫理学の特質について考える。	
		6週	幸福と道徳はいかに関係するか (功利主義的倫理学)	ベンサムおよびミルの倫理学の基礎を理解し、功利主義的倫理学 (目的論的倫理学) の特質について考える。	
		7週	正義とは何か (ロールズの正義論)	ロールズの正義論とそれに対する批判を理解する。	
		8週	自由と社会の在り方	徳倫理やコミュニタリアニズムの思想を理解する。	
	4thQ	9週	技術と責任	科学技術における「責任」について、SDGsや製造物責任なども含めて考える。	
		10週	科学技術と平和	科学技術の軍事利用の問題を含め、科学技術と平和の関係について考える。	
		11週	ロボット、AIと倫理	ロボットやAI技術の進歩がもたらす社会倫理への影響やそれらの開発の倫理的課題について考える。	

	12週	科学技術研究の倫理と情報倫理	データや実験による科学技術研究における倫理および情報倫理について考える。
	13週	環境と倫理	生態系への影響など地球規模での環境倫理を、予防原則や世代間倫理なども含めて考える。
	14週	技術者と公共性	技術者は公共に対してどのように向き合うべきなのか、内部告発などを含めて考える。
	15週	学年末達成度試験	理解度を確認する。
	16週	「終わりなき問いへの入り口」(まとめ)	技術者倫理に対してどのように向き合うべきかを考え、学修をまとめる。

評価割合

	試験	レポート	合計
総合評価割合	70	30	100
配点	70	30	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会哲学
科目基礎情報					
科目番号	0060		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 指定しない。資料を配布する				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
法、正義、権力、公共性といった社会にかかわる諸概念を哲学的・倫理的な観点から考察し、それを踏まえて社会の在り方について自ら探究することができる。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
哲学・倫理学の基本概念を理解できる。	哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、自ら思考を深めることができる。	哲学・倫理学の基本的な概念をおおむね理解している。	哲学・倫理学の基本的な概念を理解できていない。		
社会的な諸現象を思想的背景を踏まえて考えられる。	社会的な諸現象を思想的背景を踏まえて十分に考察できる。	社会的な諸現象についておおむね考察できる。	社会的な諸現象を理解できない。		
社会の在り方について、自ら探究できる。	望ましい社会の在り方について哲学的に考えられる。	望ましい社会の在り方についておおむね考えられる。	望ましい社会の在り方について考えられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	特に近代以降の西洋思想に注目しながら、そこにみられる法・正義・権力・公共性などに関する思索を手掛かりとして、社会とは何か、社会に生きる人間はいかなる存在か、社会はいかに在るべきかを検討する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心とするが、適宜、質問に答えてもらったり、周囲と対話しながら自らの考えを表明する機会を設けるので、積極的な姿勢で受講してもらいたい。また、学生からのコメントシートを活用し、できるかぎり双方向的な授業となるようにしたい。なお、哲学という学問の性質上、事実を確定することよりも事実を解釈することに主眼を置くものであり、自ら考える姿勢が求められる。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>				
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%)、レポート (30%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。平常点は、課題レポート等によって評価する。</p> <p><オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会という現象について	社会とは何か、どのような社会があるかについて、哲学的、社会的に考えることができる。	
		2週	法と権利	近代までの法と権利の概念、自然法の概念などについて理解する。	
		3週	政治権力について① (ホブズ・ロック)	社会契約論の主要思想家の社会観、人間観について理解する。	
		4週	政治権力について② (ルソー)	社会契約論の主要思想家の社会観、人間観について理解する。	
		5週	啓蒙について	アダム・スミス、ヒューム、モンテスキューラスコットランド及びフランスの啓蒙思想について理解する。	
		6週	社会の進歩について① (カント)	カントの社会思想、歴史哲学、世界市民主義について理解する。	
		7週	社会の進歩について② (ヘーゲル)	ヘーゲルの法哲学、歴史哲学について理解する。	
		8週	社会主義について	マルクスらの社会主義思想について理解する。	
	2ndQ	9週	実存主義と社会について	実存主義思想における社会観について理解する。	
		10週	資本主義と社会について	マックス・ヴェーバーの社会理論について理解する。	
		11週	文明の在り方について	アドルノらフランクフルト学派 (第一世代) の社会論、文明論について理解する。	
		12週	公共性について	アーレント及びハーバーマスの公共性の考え方について理解する。	
		13週	近代の権力について	フーコーの近代観、権力論について理解する。	
		14週	フェミニズムについて	近代から現代にかけてのフェミニズム思想について理解する。	
		15週	前期末達成度試験		
		16週	これからの社会哲学	これからの社会の在り方について考察し、学修をまとめる。	
評価割合					
	試験	レポート	合計		
総合評価割合	70	30	100		
配点	70	30	100		

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	論理トレーニング
科目基礎情報					
科目番号	0061		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 指定しない。必要に応じて資料を配布 (アップロード) する。				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
論理学の初歩的な項目を理解し, 社会事象を論理的に推論したり, 表現したりすることができる。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
正しい推論と誤謬について理解できる。	正しい推論と誤謬についての確に理解している。	正しい推論と誤謬についておおむね理解している。	正しい推論と誤謬について理解できていない。		
記号を用いた論理式を操作することができる。	記号を用いた論理式を的確に操作できる。	記号を用いた論理式をおおむね操作できる。	記号を用いた論理式を操作することができない。		
文章の論理構造を理解し批判ができる。	文章の論理構造を理解し的確な批判ができる。	文章の論理構造をおおむね理解できる。	文章の論理構造を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>「人間はいつか死んでしまう, 私は人間である, ゆえに私はいつか死んでしまう」—哀しい真理です。ところで, なぜこれは真理だと言えるのでしょうか。</p> <p>上記のような問題を出発点として, 論理的思考力を養うために, 記号論理学の初歩的内容を学びます。また, 現代の様相論理の世界を体験し, 世界を論理的に眺め, 分析するとはいかなることかを検討します。</p> <p>世界は論理という秩序をもって成立しています。技術も, 当然のことながら, 論理によって成立しています。</p> <p>論理学は我々の思考の筋道を, ごくわずかな記号で抽象化して探る学問です。</p> <p>「はじめに言葉があった, 言葉は神とともにあった, 言葉は神であった」とヨハネによる福音書は語っています。</p> <p>我々は, 言葉とともに存在し, 言葉とともに世界を形成しています。</p> <p>それでは, 我々の言語を秩序あるものとしている規則にはどのようなものがあるのでしょうか。</p> <p>こうした学びを通して, 言語に対する感覚や思考力を磨いてもらいたいと思っています。</p>				
授業の進め方・方法	<p>この授業を通して, 専門的技術を学ぶ上で基礎となる思考力が少しでも向上することを期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心に進めるが, 問題演習の時間を設ける。 ・論理を学ぶとは, 知識を得るというよりも, まさに思考法の「トレーニング」にほかならない。それゆえ, 自ら思考し, 積極的に理解しようとする姿勢を持たなければならない。 ・論理学の内容は系統的であり, 前提となる学習事項を理解できていなければその次の学習事項を理解できない。そのため, 不明点はその都度解決し, 理解に努めること。質問を歓迎する。 (一般に「文系」と区分される分野ですが, 実際には数学的な思考力を要する場面も少なくありません。最初は戸惑うことも多いと思うので, ぜひ積極的に質問してください。) ・なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。 				
注意点	<p><成績評価> 半期計2~3回のレポート (70%) と平常点 (授業時の問題演習, 課題提出) (30%) の合計100点満点で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする。</p> <p><オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00 (この時間に限らず来室可。他高専学生については, 別途指示します)</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会</p> <p>※他高専学生については, 特に前提となる科目はありません。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	思考と言語	考えると何か, 正しい推論とは何かについて理解する。	
		2週	論理的思考演習	論理的思考力を要する演習問題を解き, 論理的に考えるとは何かについて理解する。	
		3週	「私がいつか死んでしまう」とはどのような論理か (命題論理①)	命題論理における連言, 選言, 条件法の考え方を理解する。	
		4週	世界において真理を見つけること (命題論理②)	命題論理における真理値分析の方法を理解する。	
		5週	世界を証明するということ (命題論理③)	命題論理における自然演繹の方法を理解する。	
		6週	「すべて」と「ある」 (命題論理から述語論理へ)	伝統的論理学 (名辞論理) と命題論理との比較を通して, 述語論理の特徴を理解する。	
		7週	事象は世界において量と共に存在する (述語論理①)	述語論理における量化について理解する。	
		8週	「私があなを愛する」とはどのような論理か (述語論理②)	述語論理における多重量化について理解する。	
	4thQ	9週	数学を述語論理で表現する (述語論理③)	述語論理の数学的適用について理解する。	
		10週	述語論理で複雑な世界を表現する (述語論理④)	述語論理における, 命題関数を複数使用した表現法について理解する。	
		11週	単なる事実よりも一歩先へ (様相論理①)	様相論理が目指すものについて理解する。	
		12週	世界の複数性について (様相論理②)	様相論理における可能世界意味論について理解する。	
		13週	倫理的に理想的な世界から現実世界を見る (様相論理③)	様相論理の変種としての義務論理の概要を理解する。	

		14週	過去や未来を表現するとはどのようなことか（様相論理④）	様相論理からの発展としての時制論理の概要を理解する。
		15週	論理から倫理へ	論理学の知見を用いて，倫理について考える。
		16週		
評価割合				
			レポート	平常点
			合計	
総合評価割合		70	30	100
配点		70	30	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	法学	
科目基礎情報						
科目番号	0062	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書は使用しない					
担当教員	山本 啓介					
到達目標						
私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1: 関心・意欲・態度	社会における法律の意義について自己との関わりから主体的に探究する。	社会における法律の意義について探究する。	社会における法律の意義について探究できていない。			
評価項目2: 思考・判断	自ら課題を発見し、法や法制度について多面的かつ多角的な視点から考察し判断することができる。	与えられた課題を検討し、法や法制度についてある程度判断・考察することができる。	与えられた課題を検討せず、法や法制度について判断・考察することができない。			
評価項目3: 知識・理解	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識を主体的に身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識をある程度身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解せず、社会生活に必要な知識を身につけることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この授業では、①日常世界で生じている法律問題とその背景について概説し、各々の問題について、いかなる取り組みがなされているかを説明する。②現在の法制度が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。③身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、クラスでの討論からより公正な判断を導くための問題解決型学習を行う。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を課す。 ・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れずに提出すること。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(40%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業時間内またはメールにて質問等を受け付ける。 <備考> 討論形式の授業を行うので、積極的な参加が求められる。 <先修科目・後修科目> 先修科目:現代社会					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	自己決定と法	法律的な考え方基礎にある「自己決定(権)」について理解できる。		
		2週	消費生活と法(1)	消費生活における契約と約款の問題を理解できる。		
		3週	消費生活と法(2)	消費者契約法について事例を通して理解できる。		
		4週	事例検討[1]	自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探ることができる。		
		5週	家族と法	家族をめぐる法的問題について理解できる。		
		6週	子どもと法(1)	児童虐待への法的取組みについて理解できる。		
		7週	子どもと法(2)	少年犯罪及び少年法について理解できる。		
		8週	事例検討[2]	家族法や少年法に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考えられる。		
	2ndQ	9週	犯罪と法	犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について理解できる。		
		10週	裁判員制度	裁判員制度の意義と問題点について理解できる。		
		11週	医療と法(1)	インフォームド・コンセントや生殖医療に関わる法的問題について理解できる。		
		12週	事例検討[3]	刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを理解できる。		
		13週	医療と法(2)	尊厳死や安楽死の問題、および臓器移植に関わる法的問題について理解できる。		
		14週	労働と法(1)	労働契約や解雇などの労働に関わる法や制度について理解できる。		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	まとめと復習	半年間のまとめを行う。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	100
配点	60	0	0	40	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	中国語 I
科目基礎情報					
科目番号	0063		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 著者: 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほぼずき書籍 2016年発行				
担当教員	張 淑華				
到達目標					
中国語のピンインの発音や声調等を理解でき、身につけるようになり、さらに、基礎的な文法知識を学ぶことにより、中国語で簡単な自己紹介や趣味等話せるようになることを目指す。日常用語や基礎文法の修得を目標とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中国語の発音記号であるピンインを覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を殆ど身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど正確に発音できない。また、発音の特徴である声調を殆ど区別できず正確につけられない。	
評価項目2		①基本的な文法構造を理解できる。②基本的な構文、質問の仕方をマスターできる。③時間や曜日、年月日が話せる。	①基本的な文法構造を殆ど理解できる。②基本的な構文、質問の仕方を殆どマスターできる。③時間や曜日、年月日が殆ど話せる。	①基本的な文法構造を理解できない。②基本的な構文、質問の仕方が分からない。③時間や曜日、年月日が話せない。	
評価項目3		①挨拶用語を正確に使える。②簡単な自己紹介ができる。③簡単な短文作りが上手にできる。	①挨拶用語を殆ど正確に使える。②簡単な自己紹介が殆どできる。③簡単な短文作りが殆どできる。	①挨拶が殆どできない。②簡単な自己紹介があまりできない。③簡単な短文作りができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中国語の基礎発音や文法の基礎知識等を重視し、中国語の独特な発音や基礎文法に力を入れる。中国語で自己紹介できるように工夫すし、さらに、中国の伝統文化等も織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。				
授業の進め方・方法	この講義では、板書や作成プリントやICT等を活用する。個人ワークとグループワークを取り入れたり、余りできない学生に個別指導も行ったりして、授業を進める。中国語の概況から始まり、全体について理解した上で、基礎発音や文法の基礎知識等を丁寧に講義する。繰り返し練習することにより、学生が中国語の独特な発音や声調を理解し覚えるようになる。また、学生が中国語で自己紹介できるようになるため、ハンドアウト(プリント作成)や一人ずつのチェック等も工夫する。さらに、中国の伝統文化等を織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。毎回チェックしたり、発表してもらったりする。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	筆頭試験は全体の6割の比重を占め、口頭試験は2割、出欠や授業態度等は残りの2割を占める。100点満点で評価するが、全体の6割以上で合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中国と中国語の概論、発音、指数字等	中国と中国語(特に漢字)について理解し、興味を持つこと。漢字の違いが区別できる。	
		2週	ピンイン発音と声調(説明、練習、歌等)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができる。	
		3週	ピンイン発音、声調、歌等(復習、説明、練習、)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができ、正確に読め、区別できる。	
		4週	第一課 出迎え 単語、本文、文法や基礎発音等(復習、読み、説明、練習等)	挨拶用語を身につけ、挨拶表現を使い分けられ、初対面の挨拶や自己紹介ができる。	
		5週	第一課 出迎え 人体名称や基礎発音等第二課 自己紹介 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	人体各部の名称や挨拶表現等を覚え、使えるようになる。語彙の量を少しずつ増やしていく。	
		6週	第二課 自己紹介 文法など(復習、読み、説明、練習、発表等)	挨拶表現、名前、年齢、誕生日、数字の数え方等を覚え、正確に自己紹介をすることができる。	
		7週	第三課 車内の会話 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	初対面挨拶の常用表現を覚え、家族構成について簡単に表現できる。	
		8週	第三課 車内の会話 家族や親族の呼び方等 第四課 ホームステイ先にて 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	中国の複雑な家族や親族の呼称を覚え、必要な呼称を使い分けられ、正確に自己紹介できる。文法を理解し、簡単な短文が作れる。	
	2ndQ	9週	ワンタン作り(中国食文化の紹介)	食文化に触れ、伝統文化や語学に対する興味と意欲が湧き、異文化理解を深める。北方の家庭料理の一つであるワンタンの作り方などを覚え、作れる。	
		10週	第四課 ホームステイ先にて 文法や医者にかかる時の会話等(復習、読み、説明、練習、発表等)	医者にかかる時の会話を覚え、使える。文法を理解し、短文作りができる。	
		11週	第五課 山水画の鑑賞 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	少し難しい長文や文法を理解でき、使いやすい文型で短文作りができる。	

	12週	第五課 山水画の鑑賞 比較等 第六課 夕食 単語, 本文等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	漢字の比較等について習得する。文法を理解し, 短文作りができる。
	13週	第六課 夕食 文法, 漢詩の朗読 飲食物の語彙等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	漢詩を朗読できる。料理の言い方や好み等を覚え, 自己表現できる。
	14週	第七課 朝食 単語, 本文等 飲食物の語彙等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	飲食物について, 自分の意志を会話で表現でき, コミュニケーションがとれる。
	15週	第七課 朝食 単語, 本文 道案内の表現等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	声調変化について理解し, 時間の表現を習得し, 道案内もできるようになる。
	16週		

評価割合

	筆記試験	会話試験	出欠	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
配点	60	20	10	10	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	中国語Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0064		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほおずき書籍 2016年発行					
担当教員	張 淑華					
到達目標						
前期を踏まえ、語彙の量を増やしなが、複雑な文法、文型や長文を習得し、より複雑な表現ができるようになる。受講生が意欲的に取り組み、複雑な短文作りやヒヤリングや会話ができるようになることを到達目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	発音が正確であり、文法をよく理解できる。語彙の量が多く、正確に使い分けられる。	発音が殆ど正確であり、文法を理解できる。語彙の量が多く、殆ど正確に使い分けられる。	発音が不正確であり、文法をあまり理解できない。語彙の量が少なく、正確に使い分けられない。			
評価項目2	とても積極的に練習や会話に参加でき、辞書の引き方も良く分かる。	積極的に練習や会話に参加でき、態度が良い、辞書の引き方が大體分かる。	積極的に練習や会話に参加できないし、態度も良くない。辞書の引き方が殆ど分からない。			
評価項目3	聞きとりと会話が上手であり、主動的な会話もできる。短文づくりが正確である。質問もできる。	聞きとりと会話ができる。短文づくりが殆ど正確であり、質問も少しできる。	聞きとりと会話が下手であり、主動的な会話もできない。短文づくりが殆どできないし、質問もできない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	中国語Ⅰを履修した学生を対象とする。前期の基礎を踏まえ、語彙の量を増やしなが、少しずつ複雑な会話や文法等を学習し、理解する。説明や比較によって、両国の漢字のずれや違い等を区別でき、受講生の学習意欲を引き出し、レベルアップを求める。中国の伝統文化等についても紹介、講義し、さらに実践を加えることにより、受講生の異文化に対する理解を深めていく。					
授業の進め方・方法	前期のピンイン(発音)ばかりでなく、内容についても身につけさせるために、復習、朗読、暗誦等いろいろな方法で身につけさせる。その他の講義では前半は新しい内容、読み方や意味などを説明し、後半は復習、発音と会話の練習を行い、最後に習得状況を確認する。授業内容の中で、漢字のずれと比較、文法、表現や意味の違い等を説明したり、発見してもらったりすることにより、記憶を強めることができるようにする。宿題をチェックし、ミス等について説明する。なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	成績はトータルで評価する為、1、宿題と授業中の確認テスト(10点) 2、出席状況と態度(10点) 3、口頭試験(20点) 4、筆頭試験(60点) 合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	前期の復習、暗誦第三課迄	忘れた内容を復習することにより、身につけることができる。		
		2週	前期の復習、暗誦 第六課迄	漢詩を朗読できる。料理の言い方や好み等を覚え、自己表現できる。		
		3週	第七課朝食 単語、本文、結果補語、飲食関係の語彙(復習、読み、説明、練習等)	飲食関係の語彙量を増やし、料理の言い方や好み等を覚え、自己表現できる。		
		4週	第七課朝食 心理動詞、副詞や能願助動詞 第八課昼食 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	文法や文型等を理解し、簡単な短文を自分で作成できるようになる。時間の表現ができるようになる。		
		5週	第八課昼食 文法 曜日の言い方等	注文時の言い方を覚え、使い分けられ、正確に注文できるようになる。曜日の言い方も習得する。		
		6週	第九課プティックにて 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	店員との会話を習得し、買い物ができるようになる。文法を理解し、少し長い短文が作れるようになる。		
		7週	第九課プティックにて 漢詩の朗読等 第十課試着 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	店員との会話を習得し、買い物ができるようになる。文法を理解し、漢詩を朗読・暗誦できるようになる。		
		8週	第十課試着、文法や色の言い方等(復習、読み、説明、練習、発表等)	文法を理解し、少し複雑な文型で短文づくりができるようになる。		
	4thQ	9週	中国伝統文化の紹介(実施不能な場合は、授業計画繰り上げをする予定)	目のマッサージや羽根蹴り等、体を動かしながら、中国文化に触れることができ、学習意欲が湧いてくるようになる。		
		10週	第十一課値段交渉 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	服装店にて自分の好みなど表現でき、買いものを楽しむことができる。語彙の量を増やし、少し複雑な会話ができるようになる。		
		11週	第十一課値段交渉 文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	値段交渉できるようになり、会話を楽しむことができるようになる。人民幣の使い方が分かる。		
		12週	第十二課お支払い 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	お支払いについての会話表現を習得できるようになり、さらに会話を楽しめる。		
		13週	第十二課お支払い 趣味の語彙や中国貨幣の言い方 第十三課本屋にて 単語、本文(復習、読み、説明、会話練習等)	金額の言い方やお支払いのやり取りばかりでなく、さらに趣味の言い方を覚え、会話表現がより多彩、豊かになる。		

	14週	第十三課本屋にて 旅行についての会話等 (復習, 読み, 説明, 会話練習, 発表等)	本屋での買い物ばかりでなく, 旅行についても話せるようになる. 値引きも覚える. 金額教具を使い値段交渉について会話練習をする.
	15週	第十四課兆麟公園の氷祭り 単語, 本文, 文法等 (復習, 読み, 説明, 会話練習, 発表等)	長文に慣れ, 複雑な長い短文作りもできるようになる. 中国の歌やゲーム等を覚える.
	16週		

評価割合

	口頭試験	筆頭試験	出席状況 (平常点)	レポート	その他 (宿題)	合計
総合評価割合	20	60	10	0	10	100
配点	20	60	10	0	10	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ハングル I	
科目基礎情報						
科目番号	0065		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	斐 湖珠					
到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事、簡単な会話ができる。		韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事ができる。		韓国語の基本子音と母音を書く事ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	韓国語を初めて学ぶ学生を対象にする。まず、文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いを理解することを学ぶ。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り ・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(10%)、小テスト (20%) 学習態度 (10%)合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 必要に応じてメールで対応					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	ハングル文字の仕組みやハングルの由来に対して勉強する。		
		2週	韓国語の発音①	濃音、激音、子音の基本の読み書き		
		3週	韓国語の発音①	合成母音、終音で基本の読み書き、パッチム		
		4週	韓国語の発音③	発音の変化		
		5週	挨拶・韓国の地図	基本的な挨拶文と韓国の地名を習う。		
		6週	第1課・第2課	「～は、～です、～が、～ですか」練習問題		
		7週	家族の呼称	韓国では家族の呼び方に対して習う。		
		8週	第3課・第4課	指示代名詞を習う		
	2ndQ	9週	第5課・第6課	「します・しますか」を習う		
		10週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習、考え方を理解する		
		11週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		12週	第7課・第8課	「～です、～ます」を習う		
		13週	/形の縮約パターン	/形のまとめ		
		14週	数字	漢数詞と固有数詞を習う		
		15週	試験			
		16週	第9課・第10課	時計を読む事を習う		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ハングルⅡ	
科目基礎情報						
科目番号	0066		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	斐 湖珠					
到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、自国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	韓国語で基本的な日常生活会話ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期のハングルⅠを履修した学生を対象とする。まず、前期で習った文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、簡単な会話を学ぶ。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り 適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(10%)の学習態度(10%)、小テスト (10%) 合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 必要に応じてメールで対応					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第11課・第12課	動詞や形容詞の否定文		
		2週	韓国語の中の外来語、敬語	韓国語の外来語、敬語を習う		
		3週	第13課	過去型		
		4週	過去型まとめ	過去型の「/」変換		
		5週	第14課・第15課	曜日に対して習う。		
		6週	身体・位置関係	身体・位置関係する単語を習う。		
		7週	第16課	「～できる」に対して習う。		
		8週	第17課	「～したい」に対して習う。		
	4thQ	9週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習、考え方を理解する		
		10週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		11週	第18課	「～してもいい」に対して習う。		
		12週	第19課	「～しなければならない」と意志に対して習う。		
		13週	韓国の新年伝統遊び	韓国の正月の遊びを体験する。		
		14週	第20課	未来形を習う。		
		15週	試験			
		16週	まとめ	半年間のまとめ		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	スポーツ I
科目基礎情報					
科目番号	0067		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 金田 華実, 井浦 徹				
到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
意欲・関心	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
技能	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
知識・理解	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して、運動の楽しさや喜びを体得し、生涯にわたりスポーツを実践できる能力、各種技能及び体力の向上を図る。また、心身の健康のために、積極的に運動と関わるライフスタイルの基礎をつくる。				
授業の進め方・方法	授業方法は、実技が中心となるが、必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<成績評価> 上記(到達目標)に従い、100点満点で(A-2)を評価し、合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週火曜日16:00~17:00 金田, 児玉: 第1体育館, 新任教員: 第2体育館, 非常勤講師: 授業の前後に聞いて下さい。緊急の場合は体育教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目: 保健体育III 後修科目: スポーツII <備考> やむを得ない理由により欠課時数が3時間を超えてしまった場合には、申し出により補習を行うことがあるが、その場合でも欠課時数の合計が、総授業時数の1/5以内を目安とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。		
	2週	スポーツテスト① ・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	・運動能力, 体力の実態把握のために, 意欲的にテストに取り組むことができる。		
	3週	スポーツテスト②	"		
	4週	ランニング①(学校外周(2.06km)・・・2回) 種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)① <テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サービスなど, W-ゲームの把握。 <サッカー> 各種キック, トラッピング, ヘディング, ポジションに応じた戦術の理解など。 <ソフトボール> バッティング, 守備, ルールの理解など。	・健康的な生活を生涯続けるには, 心肺機能を高める持続的種目の実践(習慣)が必要であることを理解し, 意欲的に課題に取り組むことができる。 ・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 ・チーム内での役割を理解し, チーム力の向上に貢献できる。 ・ダブルスゲームでは, 仲間と協力しながら試合ができる。		
	5週	ランニング② 種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)②	"		
	6週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)③	"		
	7週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)④	"		
	8週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑤	"		
	9週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑥	"		
	10週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)① <球技系種目> 応用技能・戦術の習得。 <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。	・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 ・チーム内での役割を理解し, チーム力の向上に貢献できる。 ・ダブルスゲームでは, 仲間と協力しながら試合ができる。 ・各種トレーニングの目的や正しい実施方法を理解し, 意欲的に実践することができる。		
	11週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"		

	12週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	〃
	13週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	〃
	14週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	〃
	15週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	〃
	16週		

評価割合						
	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	100
配点	0	60	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語コミュニケーションスキル (留学生対象)	
科目基礎情報							
科目番号	0068		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般科		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	前期:2			
教科書/教材	教材は適宜, 教師が用意する。						
担当教員	岡宮 美樹						
到達目標							
3年次の「日本語」の授業での漢字の習得を継続する。 論理的な日本語, 適切な資料を使い, 自国の世界遺産について調べ, 発表することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 JLPTのN2レベルの漢字を習得している。	80%以上習得できている。		70%以上習得できている。		習得が59%以下である。		
評価項目2 論理的な日本語, 適切な資料を使い, 自国の世界遺産について調べ, 発表することができる。	効果的なプレゼンになるよう工夫し, 適切な資料を選出し, わかりやすい日本語で発表することができる。		参考資料等を参照しながら, プレゼンを作成し, 発表することができる。		プレゼンの資料の作成ができなかったり, 発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	高専での学習活動において, 各自の研究, 実験結果を正確にまとめ, 伝え, 発表する力が求められる。この授業では, 3年時の授業で身に付けた語彙や表現を使い, プレゼンテーションの方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	毎回, テーマに沿ったプレゼンテーションを作成し, 授業時に発表する。						
注意点	<成績評価> 毎回各テーマにおいて, プレゼンテーション作成を課する。提出状況, 内容などをポートフォリオ形式で評価する。 100点満点により評価し, 6割以上を獲得した者を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	オリエンテーション	本授業での取り組みを理解する。			
		2週	私の国ってこんなところ①	適切な資料等を使って, 自国の紹介ができる。			
		3週	私の国ってこんなところ②	適切な資料等を使って, 自国の紹介ができる。			
		4週	世界遺産って何?	世界遺産について, 説明することができる。			
		5週	日本の世界遺産①	日本の世界遺産について理解する。			
		6週	日本の世界遺産について発表①	日本の世界遺産について発表することができる。			
		7週	日本の世界遺産について発表② 原稿作成①	日本の世界遺産について発表することができる。 各自の国の世界遺産について, 原稿を作成する。			
	8週	日本の世界遺産② 原稿作成②	日本の世界遺産について, 説明することができる。 各自の国の世界遺産について, 原稿を作成する。				
	2ndQ	9週	原稿作成③	各自の国の世界遺産について, 原稿を作成し, 発表する。			
		10週	プレゼンテーション作成①, 発表①	各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする。			
		11週	プレゼンテーション作成②, 発表②	各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする。			
		12週	プレゼンテーション作成③, 発表③	各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする。			
		13週	プレゼンテーション練習①	正しい発音, 適切な発声, 態度で発表することができる。			
		14週	プレゼンテーション練習②	正しい発音, 適切な発声, 態度で発表することができる。			
		15週	「伝えたい! 私の国の世界遺産」	作成したプレゼンテーションを発表することができる。			
16週							
評価割合							
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	100	0	100	
配点	0	0	0	100	0	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅳ (E)	
科目基礎情報						
科目番号	0069		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IIIA, English IIIB Subjects to Complete After: English V					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction [1]	Outline of topics / Assesment criteria, Quiz [2]		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Group Presentation			
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Group Presentation			
		16週	Review / Feedback [3]	Unit 1-6		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅳ (M)	
科目基礎情報						
科目番号	0070		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IIIA, English IIIB Subjects to Complete After: English V					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction [1]	Outline of topics / Assesment criteria, Quiz [2]		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Group Presentation			
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Group Presentation			
		16週	Review / Feedback [3]	Unit 1-6		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅳ (S)	
科目基礎情報						
科目番号	0071		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IIIA, English IIIB Subjects to Complete After: English V					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction [1]	Outline of topics / Assesment criteria, Quiz [2]		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Group Presentation			
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Group Presentation			
		16週	Review / Feedback [3]	Unit 1-6		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅳ (J)	
科目基礎情報						
科目番号	0072		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IIIA, English IIIB Subjects to Complete After: English V					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction [1]	Outline of topics / Assesment criteria, Quiz [2]		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Group Presentation			
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Group Presentation			
		16週	Review / Feedback [3]	Unit 1-6		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語Ⅳ (C)	
科目基礎情報						
科目番号	0073		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ループリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IIIA, English IIIB Subjects to Complete After: English V					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction [1]	Outline of topics / Assesment criteria, Quiz [2]		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Group Presentation			
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Group Presentation			
		16週	Review / Feedback [3]	Unit 1-6		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	経済学	
科目基礎情報						
科目番号	0074	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	授業中に適宜資料を配布する					
担当教員	中島 琢郎					
到達目標						
企業/組織運営の視座から経済に関する理解を深め、実践的に活用できる知識・技術の習得を目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1 各種理論の「記憶」	専門用語を概ね記憶している	専門用語をまずまず記憶している	専門用語をほとんど記憶していない			
評価項目2 各種理論の「理解」	専門的な概念を概ね理解している	専門的な概念をまずまず理解している	専門的な概念をほとんど理解していない			
評価項目3 各種理論の「実践」	理論に基づいた実践が概ねできる	理論に基づいた実践がまずまずできる	理論に基づいた実践がほとんどできない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	経済学は、社会の仕組みを「経済」の観点から明らかにしようとする学問である。本授業では、とりわけ企業や組織に焦点を当て、経済学の近傍に位置する経営学を手掛かりに社会のメカニズムを学ぶ(狭義の経済学)。いわゆるマクロ経済やミクロ経済は、本講義のスコープ外となるため、履修登録の際は留意してほしい。					
授業の進め方・方法	「座学」と「演習」を織り交えながら、授業を進行する。受講生の理解度に応じて、授業の進捗や内容(難易度)を柔軟に変更する。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価>試験(60%)、平常点(40%)とする。評価結果60%以上の者を合格とする。 <オフィスアワー>授業終了後、教室または非常勤講師控室。 <先修科目・後修科目>先修科目:現代社会					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業の目的、進行方法、評価基準、履修ルールなどを理解する		
		2週	国際貿易(1)	国際貿易を題材に、財・サービスと貨幣の交換メカニズムを理解する		
		3週	国際貿易(2)	国際貿易を題材に、財・サービスと貨幣の交換メカニズムを理解する		
		4週	環境分析	代表的な分析フレームワーク(3C分析/5F分析)を習得する		
		5週	経営戦略	代表的な経営戦略(ポーターの競争戦略の類型化等)を理解する		
		6週	アカウンティング(1)	損益計算書、貸借対照表の構造を理解する		
		7週	アカウンティング(2)	損益分岐点の算出方法を習得する		
		8週	マーケティング(1)	STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)を理解する		
	4thQ	9週	マーケティング(2)	マーケティング・ミックス(製品戦略、価格戦略、流通戦略、コミュニケーション戦略)を理解する		
		10週	人的資源管理(1)	組織文化が及ぼす影響を理解し、理念浸透施策を実際に考案する		
		11週	人的資源管理(2)	ミシガンモデルに基づいて、アルバイト先の人事システムを設計する		
		12週	組織行動論(1)	PM理論に基づいて、アルバイト先の上司を評価する		
		13週	組織行動論(2)	個人のカ(モチベーション)を引き出す勘所を掴む		
		14週	組織行動論(3)	集団のカ(グループ・ダイナミクス)を引き出す勘所を掴む		
		15週	学年末達成度試験			
		16週	講義のまとめ	基礎知識の理解度を再確認する		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 V (M)	
科目基礎情報						
科目番号	0075		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IV					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 7	Questions		
		2週	Unit 7	Numbers		
		3週	Unit 8	Explaining rules		
		4週	Unit 8	Identifying faults		
		5週	Unit 9	Safety hazards		
		6週	Unit 9	Instructions		
		7週	Unit 10	Shapes / Classifying		
		8週	Group Presentation			
	4thQ	9週	Unit 11	Testing		
		10週	Unit 11	Understanding instructions		
		11週	Unit 12	Warnings		
		12週	Unit 12	Making suggestions		
		13週	Unit 13	Giving Directions		
		14週	Unit 13	Traveling Words / Phrases		
		15週	Individual Presentation			
		16週	Review / Feedback [4]	Unit 7-13		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 V (E)		
科目基礎情報						
科目番号	0076	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.	Skills to communicate in English.	Inadequate skills to communicate in English.			
Listening skills	High, practical English listening skills.	English listening skills.	Inadequate English listening skills.			
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.	Skills to accomplish English homework tasks.	Inadequate skills to accomplish English homework tasks.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IV					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	Unit 7	Questions		
		2週	Unit 7	Numbers		
		3週	Unit 8	Explaining rules		
		4週	Unit 8	Identifying faults		
		5週	Unit 9	Safety hazards		
		6週	Unit 9	Instructions		
		7週	Unit 10	Shapes / Classifying		
		8週	Group Presentation			
	4thQ	9週	Unit 11	Testing		
		10週	Unit 11	Understanding instructions		
		11週	Unit 12	Warnings		
		12週	Unit 12	Making suggestions		
		13週	Unit 13	Giving Directions		
		14週	Unit 13	Traveling Words / Phrases		
		15週	Individual Presentation			
		16週	Review / Feedback [4]	Unit 7-13		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 V (S)	
科目基礎情報						
科目番号	0077		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Evolve Level 2 Digital Pack Split A (Cambridge University Press)					
担当教員	ケント					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
評価項目1	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
評価項目2	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IV					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 1	Connections		
		2週	Unit 1	Connections		
		3週	Unit 2	Work and Study		
		4週	Unit 2	Work and Study		
		5週	Unit 3	Let's Move		
		6週	Unit 3	Let's Move		
		7週	TEST 1 & PRES 1			
		8週	Unit 4	Good Times		
	4thQ	9週	Unit 4	Good Times		
		10週	Unit 5	First and Lasts		
		11週	Unit 5	Firsts and Lasts		
		12週	Unit 6	Buy now, pay later		
		13週	Unit 6	Buy now, pay later		
		14週	TEST 2 & PRES 2			
		15週	FINAL SPEAKING TEST			
		16週	Review / Feedback			
評価割合						
	Tests	Attendance	Homework	Presentations	Participation	合計
総合評価割合	20	20	20	30	10	100
配点	20	20	20	30	10	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 V (J)	
科目基礎情報						
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IV					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 7	Questions		
		2週	Unit 7	Numbers		
		3週	Unit 8	Explaining rules		
		4週	Unit 8	Identifying faults		
		5週	Unit 9	Safety hazards		
		6週	Unit 9	Instructions		
		7週	Unit 10	Shapes / Classifying		
		8週	Group Presentation			
	4thQ	9週	Unit 11	Testing		
		10週	Unit 11	Understanding instructions		
		11週	Unit 12	Warnings		
		12週	Unit 12	Making suggestions		
		13週	Unit 13	Giving Directions		
		14週	Unit 13	Traveling Words / Phrases		
		15週	Individual Presentation			
		16週	Review / Feedback [4]	Unit 7-13		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 V (C)	
科目基礎情報						
科目番号	0079		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	ケルヴィン					
到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	Skills to communicate in English effectively and confidently.		Skills to communicate in English.		Inadequate skills to communicate in English.	
Listening skills	High, practical English listening skills.		English listening skills.		Inadequate English listening skills.	
Homework tasks	High, practical skills to accomplish English homework tasks.		Skills to accomplish English homework tasks.		Inadequate skills to accomplish English homework tasks.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2) Subjects to Complete Before: English IV					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Unit 7	Questions		
		2週	Unit 7	Numbers		
		3週	Unit 8	Explaining rules		
		4週	Unit 8	Identifying faults		
		5週	Unit 9	Safety hazards		
		6週	Unit 9	Instructions		
		7週	Unit 10	Shapes / Classifying		
		8週	Group Presentation			
	4thQ	9週	Unit 11	Testing		
		10週	Unit 11	Understanding instructions		
		11週	Unit 12	Warnings		
		12週	Unit 12	Making suggestions		
		13週	Unit 13	Giving Directions		
		14週	Unit 13	Traveling Words / Phrases		
		15週	Individual Presentation			
		16週	Review / Feedback [4]	Unit 7-13		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	地球科学
科目基礎情報					
科目番号	0080		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 教科書: 大西浩次「科学と人間生活」5章ほか, 中村桂子代表 (実教出版). および, 自作教材参考書 (TEAMSにUP): シリーズ現代の天文学 (日本天文学会編) I: 岡村・池内・海部・佐藤・永原 「人類の住む宇宙」日本評論社, 鹿園直建「地球惑星システム科学入門」(東京大学出版会), 東京大学地球惑星システム科学講座[編]「進化する地球惑星システム」(東京大学出版会)				
担当教員	大西 浩次				
到達目標					
宇宙における地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できること. さらに, プレートテクトニクスに基づく, 日本列島の形成と地震について説明できること. これらを学習し, 宇宙の中での地球の特異性と普遍性を説明できること. また, 災害のメカニズムを理解し, 防災についての理解を得ること. これらの内容を満足する事で, 学習・教育目標の(C-1)、および、(D-1)の達成とする.					
本科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要です.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できる. 回路方程式を作成し回路の特性を説明できる.	地球の形成史や現在の地球への様子が説明できる.	地球の形成史などが説明できない.		
評価項目2	プレートテクトニクスに基づく, 日本列島の形成と地震について説明できる.	日本列島の形成と地震について理解している.	日本列島の形成と地震について理解していない.		
評価項目3	災害のメカニズムを理解し, 防災についての対策などが考えることができる.	災害のメカニズムや防災の大切さを説明できる.	災害のメカニズムや防災などが説明できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前半では, 地球科学に関係する基本的な内容を学び, 宇宙の中での「地球」の特異性と普遍性を理解する. 後半は, 地球科学, 特にプレートテクトニクスに基づく, 日本列島の形成と地震についての基礎を学び, 東日本大震災後の地球科学の進む道を考える.				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とし, 毎回, 授業時間内の出席小テストと授業終了後の演習問題やレポート課題をTEAMSで行う. ・単元ごとに, 小テストや用語の確認, あるいは, レポート課題を課す. 小テスト・用語の確認テストは, 毎授業終了時にTEAMSにて提出のこと. レポートは, 期限内に遅れず提出すること. ・本科目では BYOD パソコンを持参すること. 				
注意点	<p><成績評価> 試験 (50%), 小テスト・レポート等 (30%) の合計80点満点で (C-1)、試験 (10%)、小テスト・レポート (10%) の合計20点満点で (D-1)を評価する. 合計100点満点で6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする.</p> <p><オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 機械工学科棟3 F 大西教員室. この時間にとらわれず必要に応じて来室可</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は物理 I, 物理 II, 化学 I, 化学 II, 応用物理 I となる.</p> <p><備考> いくつかの専門分野がかかわる複合領域を含むため, 既存の知識のみでは理解が困難になる場合がある. 自ら積極的に考え, 調べる必要がある.</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	宇宙から地球を眺める	宇宙における地球の位置づけと特徴を理解する.	
		2週	地球と取り巻く時空の階層構造	地球を取り巻く時空の階層構造の存在を理解し, その原因に付いて説明できる.	
		3週	膨張宇宙からビックバン	ビックバンとはなにか理解し, ビックバンや星での元素合成を説明できる.	
		4週	太陽系の中の地球	太陽系の広がり説明できる. 太陽系の形成について説明できる. 金星, 火星と比較して地球環境を理解する.	
		5週	惑星としての地球から生命の星としての地球へ	地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できる. 地球に最初に誕生した生命がどのように進化して現在に到るかを説明できる.	
		6週	地球大気と海洋の運動	地球大気構造や気温分布を熱輸送の観点から説明できる. 大気の大循環を理解し, 大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる.	
		7週	惑星としての地球	地球の熱収支を熱放射の観点から調べ, 温室効果の意味を説明できる. 金星や火星と地球の違いを温室効果ガスや放射平衡温度から理解する.	
		8週	前期中間理解度確認	現在の地球環境に到るまでの進化の過程の基本的な理解度を確認する.	
		2ndQ	9週	生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について説明できる. 生物に共通する性質について説明できる.

	10週	地球上の植生と生態系	世界のバイオームとその分布について説明できる。日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。
	11週	日本列島を作った作用	プレートテクトニクスを理解し、日本列島の特徴を理解する。
	12週	地震・火山のメカニズム	地震や火山のメカニズムを理解し、ハザードとリスクについて考える。
	13週	地震災害・火山災害と防災	地震災害、火山災害の特徴と防災を理解する。地震や火山災害のハザードマップを読めるようにする。
	14週	気象災害と防災	気象災害の特徴と防災を理解する。気象災害のハザードマップを読めるようにする。
	15週	前期末達成度試験	地球のグローバルな環境問題を理解しているか、災害の起こるメカニズムと防災に付いての基礎的な理解度を確認する。
	16週	まとめと復習	これまで学習した内容を振り返りながら、過去に起きた大災害（阪神・淡路大震災や東日本大震災、令和元年台風19号による千曲川の氾濫）を確認し、技術者としての今後を考える。

評価割合

	試験	出席小テスト	課題テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	15	20	5	0	100
配点(C-1)	50	10	20	0	0	80
配点(D-1)	10	5	0	5	0	20

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度(2023年度)	授業科目	スポーツⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0078	科目区分	一般/必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:2		
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 金田 華実, 篠原 克修				
到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
意欲・関心	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
技能	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
思考・判断	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して、運動の楽しさや喜びを体得し、生涯にわたりスポーツを実践できる能力、各種技能及び体力の向上を図る。また、心身の健康のために、生活の中に積極的に運動を取り入れる。				
授業の進め方・方法	授業方法は、実技が中心となるが、学習教育目標(A-2)を評価するためのレポート課題を課す。				
注意点	<成績評価> 上記(到達目標)に従い、100点満点で(A-2)を評価し、合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週火曜日16:00~17:00 金田, 児玉: 第1体育館, 新任教員: 第2体育館, 非常勤講師: 授業の前後に聞いて下さい。緊急の場合は体育教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目: スポーツI <備考> やむを得ない理由により欠課時数が3時間を超えてしまった場合には、申し出により補習を行うことがあるが、その場合でも欠課時数の合計が、総授業時数の1/5以内を目安とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。		
	2週	スポーツテスト① ・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	・運動能力, 体力の実態把握のために, 意欲的にテストに取り組むことができる。		
	3週	スポーツテスト②	"		
	4週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)① <テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サービスなど, W-ゲームの把握。 <サッカー> 各種キック, トラッピング, ヘディング, ポジションに応じた戦術の理解など。 <ソフトボール> バッティング, 守備, ルールの理解など。	・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 ・チーム内での役割を理解し, チーム力の向上に貢献できる。 ・ダブルスゲームでは, 仲間と協力しながら試合ができる。		
	5週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)②	"		
	6週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)③	"		
	7週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)④	"		
	8週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑤	"		
	9週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑥	"		
	10週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)① <球技系種目> 発展的技術・戦術の習得。 <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。	・技能向上に向けて, 積極的に活動に取り組むことができる。 ・チーム内での役割を理解し, チーム力の向上に貢献できる。 ・ダブルスゲームでは, 仲間と協力しながら試合ができる。 ・各種トレーニングの目的や正しい実施方法を理解し, 意欲的に実践することができる。		
	11週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"		
	12週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	"		
	13週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	"		

	14週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	〃
	15週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	〃
	16週		

評価割合

	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	40	10	0	100
配点	0	50	40	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文学	
科目基礎情報						
科目番号	0079	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	テキストが品切れのため、プリントを配布する。低学年で使用した国語便覧。					
担当教員	小池 博明					
到達目標						
我が国の文学の最高傑作である『源氏物語』について、その時代的・文化的背景と関連づけておおよ理解することができる。また、『源氏物語』について、自らの考えを述べることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
『源氏物語』の理解	『源氏物語』について、注釈書や関連資料を参考にしながらおおよ理解できる。また、『源氏物語』について、自らの考えを述べることができる。	『源氏物語』について、注釈書や関連資料を使って、理解しようとするすることができる。	『源氏物語』が理解できない。			
『源氏物語』に関連する、日本文化の理解	『源氏物語』を、その時代的・文化的背景に関連づけて、おおよ理解できる。	『源氏物語』の時代的・文化的背景をおおよ理解できる。	『源氏物語』の背景が理解できない。			
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	我が国の最高の文学作品と位置づけられる『源氏物語』を、現代語訳の付いた注釈書や関連資料を参考にしながらじっくりと読み味わう。作品の内容から、平安時代の人々の考え方、感じ方や社会のあり方などを知り、そこから受講者各人に様々なことを感じたり、考えたりしてもらいたいので、文法事項は内容や表現などに深く関わる場合のみ触れることとする。 今年度は、物語の発端となる桐壺巻（冒頭部分）と、ヒロイン若紫の出会いや光源氏と藤壺との密会など、物語全体に大きな影響を与える若紫巻を取り上げる予定である（なお、受講者との話し合いで、他の巻を取り上げる場合もある）。					
授業の進め方・方法	現代における『源氏物語』の代表的注釈書である『古典セクション 源氏物語』を、ときに教授者の私見も交えつつ講義する。講義形式ではあるが、できるだけ受講者と対話して進めていきたい。なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。					
注意点	〈成績評価〉レポート（70%）、課題など（30%）の合計100点満点で（A-1）を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 〈オフィスアワー〉16：00～17：00、管理・一般科棟3F国語教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください。 〈先修科目〉国語Ⅱ					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1週	ガイダンス	授業を受けるにあたって、必要な事柄を理解する。			
	2週	『源氏物語』概説	『源氏物語』に関する基礎知識を理解する。			
	3週	桐壺①	・桐壺のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕帝の桐壺更衣への御おぼえまばゆし」「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」（前半）が理解できる。			
	4週	桐壺②	「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」（後半）、「〔3〕若宮三歳になり、袴着の儀式を行う」が理解できる。			
	5週	桐壺③	「〔4〕更衣病む、帝に別れて退出、命果てる」「〔5〕無心の若宮、更衣の里に退出する」が理解できる。			
	6週	若紫（紫の上との出会い）①	・若紫巻のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕源氏、瘧病（わらわやみ）をわずらい、北山の聖を訪れる」が理解できる。			
	7週	若紫（紫の上との出会い）②	「〔2〕源氏、なにがし僧都の坊に女人を見る」「〔4〕源氏、紫の上を見だして恋慕する」（前半）が理解できる。			
	8週	若紫（紫の上との出会い）③	「〔4〕源氏、紫の上を見だして恋慕する」（後半）、「〔6〕源氏、紫の上の素性を聞き僧都に所望する」（前半）が理解できる。			
	2ndQ	9週	若紫（紫の上との出会い）④	「〔6〕源氏、紫の上の素性を聞き僧都に所望する」（後半）、「〔7〕源氏、尼君に意中を訴え、拒まれる」（前半）が理解できる。		
		10週	若紫（紫の上との出会い）⑤	「〔7〕源氏、尼君に意中を訴え、拒まれる」（後半）が理解できる。		
		11週	若紫（紫の上との出会い）⑥	「〔10〕源氏、公達と帰還、紫の上、源氏を慕う」が理解できる。		

	12週	若紫（紫の上との出会い）⑦	「〔11〕源氏、葵の上と不和 紫の上を思う」が理解できる。
	13週	若紫（藤壺との密通）①	「〔13〕藤壺、宮中を退出 源氏、藤壺と逢う」が理解できる。
	14週	若紫（藤壺との密通）②	「〔14〕源氏・藤壺の苦悩 藤壺解任、宮中に帰参」（前半）が理解できる。
	15週	若紫（藤壺との密通）③	「〔14〕源氏・藤壺の苦悩 藤壺解任、宮中に帰参」（後半）が理解できる。
	16週		

評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	30	70	0	100
配点	0	0	30	70	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	西洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0080	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	『最新世界史図説タバストリー』(帝国書院)を持参すること。					
担当教員	久保田 和男					
到達目標						
西洋史上の大きな変化を理解できていること。西洋の歴史地理的な基本的な知識を理解していること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
・西洋古代史について説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・西洋中世史について、ユダヤ人との関連で説明できる。	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・西洋近代史・現代史について、中東問題と関連つけて起源を説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中東・欧州の歴史を概観する ・宗教問題と社会について考える ・ユダヤ人の歴史について考え、中東問題の起源を知る 					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とする ・適宜、レポート課題などを課すので、期限内に遅れず提出すること <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績(80%)と、授業への取り組む姿勢(20% ノート点検で判断する)で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものとして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00~17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	・西アジア、北アフリカ・ヨーロッパの風土について理解する。	・西アジア、北アフリカ・ヨーロッパの気候や地形について説明できる。		
		2週	・アケメネス朝ペルシャ帝国と宗教：ゾロアスター教とユダヤ教	・ゾロアスター教やユダヤ教についてその成立の背景を中心に理解する。		
		3週	・ギリシャ文明について	・ペルシャ戦争やペロポネソス戦争などをアテネやスパルタの政治体制と併せて説明できる。		
		4週	・ギリシャ哲学	・ギリシャ哲学について考える		
		5週	・ヘレニズム時代と諸宗教	・アレクサンドロス大王の東方遠征の意味を知る。		
		6週	・ローマ共和国 ローマ帝国の成立	・共和政時代のローマの発展と理解する。		
		7週	・ローマ帝国の衰退とキリスト教。三位一体説。異端と正統。	・ローマ帝国とキリスト教徒の関係を理解する。		
		8週	ギリシャ・ローマ文明と、キリスト教の関係について確認する	理解度のチェックを行う。		
	2ndQ	9週	・ゲルマン民族とキリスト教。カール大帝とローマ教皇	・西ヨーロッパ世界の成立を宗教面から理解する。		
		10週	・イスラム教の成立と、イスラム教との生活	・イスラム教について一定の理解をもつ。		
		11週	・十字軍の開始と展開	・イスラム圏にキリスト教徒に対する敵意を芽生えさせた原因を理解する。		
		12週	・ヨーロッパにおける主権国家体制とユダヤ人	主権国家の成立と内容からユダヤ人迫害を理解する。		
		13週	ユダヤ人と近代ヨーロッパ	近代ヨーロッパ世界の成立による、人権とナショナリズムをユダヤ人問題から考える。		
		14週	・中東紛争	・イスラエルの建国に始まる深刻な対立について概要を知る。		
		15週	試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	東洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0081		科目区分	一般 /		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『最新世界史図説タベストーリー』（帝国書院）を持参すること。参考書：東野治之『遣唐使』（岩波新書） 榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社選書メチエ）五味文彦『大仏再建』（講談社選書メチエ）その他は、教場で紹介する。					
担当教員	久保田 和男					
到達目標						
東アジア海域交流史を理解できていること。東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できていること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
前近代史の日中交流についての諸問題を説明できる。	説明できる	部分的に説明できる	あまり説明できない			
東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できている	基本的に理解出来ている	部分的に理解出来る	全く理解出来ていない			
東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える	しっかりと考えている	日本文化の成立について部分的に考えている	全く考えていない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> 前近代史の日中交流についての諸問題を検討する。 東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える。 					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法は講義を中心とする。 適宜、レポート課題などを課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績（80%）と、授業への取り組み姿勢（20% ノート点検で判断する）で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものとして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00～17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	・ オリエンテーション	・ 東アジアの地理を理解する。		
		2週	・ 古代中国文明と東アジア	・ 中国文明と日本の新石器時代の関わりを理解する。		
		3週	・ 漢代の東アジアと倭国	・ 倭国の形成を中国歴史書から理解する。		
		4週	・ 三国時代と卑弥呼	・ 卑弥呼はなぜ使いを送ったのか、なぜ魏は卑弥呼を王に任じたのか理解する。		
		5週	・ 南北朝時代の東アジア・倭の五王	・ 仏教の中国伝来と朝鮮・日本への伝播を理解する。		
		6週	・ 遣唐使と「日本」の成立	・ 「日本」という国号や「天皇」という称号の生まれた背景を遣唐使の時代を通じて考える。		
		7週	・ 東アジアの変動と遣唐使の中止	・ 遣唐使はなぜ中止されたのか理解する。日本と宋との貿易関係を理解する。		
		8週	古代東アジア国際交流への理解を確認する	理解度チェック		
	4thQ	9週	・ 五代十国時代の意義	・ 唐宋変革における五代十国時代の意義を考える。		
		10週	・ 北宋の文治政治と経済	・ 宋都開封の歴史地理的な意義を考える。		
		11週	・ 南宋における対外貿易	・ 奈良の大仏再建における日宋貿易の役割を中心に考える。		
		12週	・ 元寇とその東アジア的な意義	・ 元寇に関わった高麗や南宋そして鎌倉幕府を通じて、大元帝国への理解を深める。		
		13週	・ 倭寇と日明貿易	・ 明朝の朝貢貿易体制と倭寇の発生について理解する。		
		14週	・ 鎖国と日中の貿易関係	・ 江戸時代の対外政策について理解する。		
		15週	・ 試験			
		16週	まとめと復習			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本社会史	
科目基礎情報						
科目番号	0082		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 参考書: 授業で随時紹介する.					
担当教員	二星 潤					
到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で, 論述問題をまとめることができることにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる.	資料の意義を解説することができる.		資料を正しく読むことができ, 内容も説明できる.		資料の内容を説明できない.	
2. 授業の内容について, 論述問題をまとめることができる.	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる.		歴史的な諸問題について, 授業の内容をまとめて論述できる.		授業の内容について, 論述できない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	近代以前の日本社会の特色についての認識を深めることにより, 歴史的思考力を培う.					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は講義を中心とする. ・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること. なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.					
注意点	<成績評価> 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする. <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会となる.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会史の学び方	日本社会史を学ぶ目的を考える.		
		2週	縄文時代の社会	考古資料から縄文時代の社会を考察する.		
		3週	農耕社会の成立	水稲耕作の開始が日本社会に与えた影響を知る.		
		4週	平城京と地方社会	律令体制の整備と地方社会の関わりを考察する.		
		5週	平安貴族の社会	平安貴族の特色について理解する.		
		6週	古代仏教と社会	古代仏教が日本社会に与えた影響を知る.		
		7週	院政期の社会	院政期の社会の特徴を理解する.		
		8週	中世の武士社会	中世の武士の生活について考察する.		
	2ndQ	9週	中世社会の変動	商工業の発達による社会の変動を知る.		
		10週	武家社会の成長	諸産業の発達による社会の多様な展開を理解する.		
		11週	近世の社会	近世の社会の特徴を理解する.		
		12週	近世の都市	近世の都市構造について考察する.		
		13週	近世の地域社会	近世の地域社会の運営について知る.		
		14週	近世社会の変容	近世社会の変容が与えた影響を考察する.		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	授業のまとめ	日本社会とは何かを考える.		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本文化史		
科目基礎情報						
科目番号	0083	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	5			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: プリントを配布する。参考書: 授業で随時紹介する。					
担当教員	二星 潤					
到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で、論述問題をまとめることができることにより、学習・教育目標の (A-1) の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
1, 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる。	資料の意義を解説することができる。	資料を正しく読むことができ、内容も説明できる。	資料の内容を説明できない。			
2, 授業の内容について、論述問題をまとめることができる。	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる。	歴史的な諸問題について、授業の内容をまとめて論述できる。	授業の内容について、論述できない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本の文化の特色についての認識を深めることにより、歴史的思考力を培う。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は講義を中心とする。 ・ 適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。 <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会となる。</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	日本文化史の学び方	日本文化史を学ぶ目的を理解する。		
		2週	日本文化のはじまり	日本文化の発生を考察する。		
		3週	縄文文化と弥生文化	考古資料から縄文・弥生文化の形成を考察する。		
		4週	古墳文化	古墳の変化から社会の変容をとらえる。		
		5週	飛鳥文化と白鳳文化	大陸文化の受容を理解する。		
		6週	天平文化	天平文化における政治性と国際性を理解する。		
		7週	唐風文化と国風文化	唐風文化と国風文化を比較する。		
		8週	鎌倉文化	鎌倉文化の新しい気運を理解する。		
	4thQ	9週	室町文化	武家文化と公家文化の関係について考察する。		
		10週	桃山文化と南蛮文化	文化の持つ幅広い国際性を理解する。		
		11週	元禄文化	経済の発展と文化の関連を考察する。		
		12週	化政文化	文化における近代化の芽生えを理解する。		
		13週	近代文化	近代文化の二元性をとらえる。		
		14週	市民文化	都市化や国民生活の変化を理解する。		
		15週	学年末達成度試験			
		16週	授業のまとめ	日本文化とは何かを考える。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会哲学
科目基礎情報					
科目番号	0084		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 指定しない。資料を配布する				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
法、正義、権力、公共性といった社会にかかわる諸概念を哲学的・倫理的な観点から考察し、それを踏まえて社会の在り方について自ら探究することができる。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
哲学・倫理学の基本概念を理解できる。	哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、自ら思考を深めることができる。	哲学・倫理学の基本的な概念をおおむね理解している。	哲学・倫理学の基本的な概念を理解できていない。		
社会的な諸現象を思想的背景を踏まえて考えられる。	社会的な諸現象を思想的背景を踏まえて十分に考察できる。	社会的な諸現象についておおむね考察できる。	社会的な諸現象を理解できない。		
社会の在り方について、自ら探究できる。	望ましい社会の在り方について哲学的に考えられる。	望ましい社会の在り方についておおむね考えられる。	望ましい社会の在り方について考えられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	特に近代以降の西洋思想に注目しながら、そこにみられる法・正義・権力・公共性などに関する思索を手掛かりとして、社会とは何か、社会に生きる人間はいかなる存在か、社会はいかに在るべきかを検討する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義を中心とするが、適宜、質問に答えてもらったり、周囲と対話しながら自らの考えを表明する機会を設けるので、積極的な姿勢で受講してもらいたい。また、学生からのコメントシートを活用し、できるかぎり双方向的な授業となるようにしたい。なお、哲学という学問の性質上、事実を確定することよりも事実を解釈することに主眼を置くものであり、自ら考える姿勢が求められる。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>				
注意点	<p><成績評価> 期末試験 (70%)、レポート (30%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。平常点は、課題レポート等によって評価する。</p> <p><オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	社会という現象について	社会とは何か、どのような社会があるかについて、哲学的、社会学的に考えることができる。	
		2週	法と権利	近代までの法と権利の概念、自然法の概念などについて理解する。	
		3週	政治権力について① (ホブズ・ロック)	社会契約論の主要思想家の社会観、人間観について理解する。	
		4週	政治権力について② (ルソー)	社会契約論の主要思想家の社会観、人間観について理解する。	
		5週	啓蒙について	アダム・スミス、ヒューム、モンテスキューラスコットランド及びフランスの啓蒙思想について理解する。	
		6週	社会の進歩について① (カント)	カントの社会思想、歴史哲学、世界市民主義について理解する。	
		7週	社会の進歩について② (ヘーゲル)	ヘーゲルの法哲学、歴史哲学について理解する。	
		8週	社会主義について	マルクスらの社会主義思想について理解する。	
	2ndQ	9週	実存主義と社会について	実存主義思想における社会観について理解する。	
		10週	資本主義と社会について	マックス・ヴェーバーの社会理論について理解する。	
		11週	文明の在り方について	アドルノらフランクフルト学派 (第一世代) の社会論、文明論について理解する。	
		12週	公共性について	アーレント及びハーバーマスの公共性の考え方について理解する。	
		13週	近代の権力について	フーコーの近代観、権力論について理解する。	
		14週	フェミニズムについて	近代から現代にかけてのフェミニズム思想について理解する。	
		15週	前期末達成度試験		
		16週	これからの社会哲学	これからの社会の在り方について考察し、学修をまとめる。	
評価割合					
	試験	レポート	合計		
総合評価割合	70	30	100		
配点	70	30	100		

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	論理トレーニング
科目基礎情報					
科目番号	0085		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 指定しない。必要に応じて資料を配布 (アップロード) する。				
担当教員	嶋崎 太一				
到達目標					
論理学の初歩的な項目を理解し, 社会事象を論理的に推論したり, 表現したりすることができる。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
正しい推論と誤謬について理解できる。	正しい推論と誤謬についての確に理解している。	正しい推論と誤謬についておおむね理解している。	正しい推論と誤謬について理解できていない。		
記号を用いた論理式を操作することができる。	記号を用いた論理式を的確に操作できる。	記号を用いた論理式をおおむね操作できる。	記号を用いた論理式を操作することができない。		
文章の論理構造を理解し批判ができる。	文章の論理構造を理解し的確な批判ができる。	文章の論理構造をおおむね理解できる。	文章の論理構造を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>「人間はいつか死んでしまう, 私は人間である, ゆえに私はいつか死んでしまう」—哀しい真理です。ところで, なぜこれは真理だと言えるのでしょうか。</p> <p>上記のような問題を出発点として, 論理的思考力を養うために, 記号論理学の初歩的内容を学びます。また, 現代の様相論理の世界を体験し, 世界を論理的に眺め, 分析するとはいかなることかを検討します。</p> <p>世界は論理という秩序をもって成立しています。技術も, 当然のことながら, 論理によって成立しています。</p> <p>論理学は我々の思考の筋道を, ごくわずかな記号で抽象化して探る学問です。</p> <p>「はじめに言葉があった, 言葉は神とともにあった, 言葉は神であった」とヨハネによる福音書は語っています。</p> <p>我々は, 言葉とともに存在し, 言葉とともに世界を形成しています。</p> <p>それでは, 我々の言語を秩序あるものとしている規則にはどのようなものがあるのでしょうか。</p> <p>こうした学びを通して, 言語に対する感覚や思考力を磨いてもらいたいと思っています。</p>				
授業の進め方・方法	<p>この授業を通して, 専門的技術を学ぶ上で基礎となる思考力が少しでも向上することを期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心に進めるが, 問題演習の時間を設ける。 ・論理を学ぶとは, 知識を得るというよりも, まさに思考法の「トレーニング」にほかならない。それゆえ, 自ら思考し, 積極的に理解しようとする姿勢を持たなければならない。 ・論理学の内容は系統的であり, 前提となる学習事項を理解できていなければその次の学習事項を理解できない。そのため, 不明点はその都度解決し, 理解に努めること。質問を歓迎する。 (一般に「文系」と区分される分野ですが, 実際には数学的な思考力を要する場面も少なくありません。最初は戸惑うことも多いと思うので, ぜひ積極的に質問してください。) ・なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。 				
注意点	<p><成績評価> 半期計2~3回のレポート (70%) と平常点 (授業時の問題演習, 課題提出) (30%) の合計100点満点で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする。</p> <p><オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00 (この時間に限らず来室可。他高専学生については, 別途指示します)</p> <p><先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会</p> <p>※他高専学生については, 特に前提となる科目はありません。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	思考と言語	考えると何か, 正しい推論とは何かについて理解する。	
		2週	論理的思考演習	論理的思考力を要する演習問題を解き, 論理的に考えると何かについて理解する。	
		3週	「私がいつか死んでしまう」とはどのような論理か (命題論理①)	命題論理における連言, 選言, 条件法の考え方を理解する。	
		4週	世界において真理を見つけること (命題論理②)	命題論理における真理値分析の方法を理解する。	
		5週	世界を証明するということ (命題論理③)	命題論理における自然演繹の方法を理解する。	
		6週	「すべて」と「ある」 (命題論理から述語論理へ)	伝統的論理学 (名辞論理) と命題論理との比較を通して, 述語論理の特徴を理解する。	
		7週	事象は世界において量と共に存在する (述語論理①)	述語論理における量化について理解する。	
		8週	「私があなたを愛する」とはどのような論理か (述語論理②)	述語論理における多重量化について理解する。	
	4thQ	9週	数学を述語論理で表現する (述語論理③)	述語論理の数学的適用について理解する。	
		10週	述語論理で複雑な世界を表現する (述語論理④)	述語論理における, 命題関数を複数使用した表現法について理解する。	
		11週	単なる事実よりも一歩先へ (様相論理①)	様相論理が目指すものについて理解する。	
		12週	世界の複数性について (様相論理②)	様相論理における可能世界意味論について理解する。	
		13週	倫理的に理想的な世界から現実世界を見る (様相論理③)	様相論理の変種としての義務論理の概要を理解する。	

		14週	過去や未来を表現するとはどのようなことか（様相論理④）	様相論理からの発展としての時制論理の概要を理解する。
		15週	論理から倫理へ	論理学の知見を用いて、倫理について考える。
		16週		
評価割合				
			レポート	平常点
			合計	
総合評価割合		70	30	100
配点		70	30	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	法学	
科目基礎情報						
科目番号	0086	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書は使用しない					
担当教員	山本 啓介					
到達目標						
私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1: 関心・意欲・態度	社会における法律の意義について自己との関わりから主体的に探究する。	社会における法律の意義について探究する。	社会における法律の意義について探究できていない。			
評価項目2: 思考・判断	自ら課題を発見し、法や法制度について多面的かつ多角的な視点から考察し判断することができる。	与えられた課題を検討し、法や法制度についてある程度判断・考察することができる。	与えられた課題を検討せず、法や法制度について判断・考察することができない。			
評価項目3: 知識・理解	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識を主体的に身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識をある程度身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解せず、社会生活に必要な知識を身につけることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この授業では、①日常世界で生じている法律問題とその背景について概説し、各々の問題について、いかなる取り組みがなされているかを説明する。②現在の法制度が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。③身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、クラスでの討論からより公正な判断を導くための問題解決型学習を行う。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を課す。 ・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れずに提出すること。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(40%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業時間内またはメールにて質問等を受け付ける。 <備考> 討論形式の授業を行うので、積極的な参加が求められる。 <先修科目・後修科目> 先修科目:現代社会					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	自己決定と法	法律的な考え方基礎にある「自己決定(権)」について理解できる。		
		2週	消費生活と法(1)	消費生活における契約と約款の問題を理解できる。		
		3週	消費生活と法(2)	消費者契約法について事例を通して理解できる。		
		4週	事例検討[1]	自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探ることができる。		
		5週	家族と法	家族をめぐる法的問題について理解できる。		
		6週	子どもと法(1)	児童虐待への法的取組みについて理解できる。		
		7週	子どもと法(2)	少年犯罪及び少年法について理解できる。		
		8週	事例検討[2]	家族法や少年法に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考えられる。		
	2ndQ	9週	犯罪と法	犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について理解できる。		
		10週	裁判員制度	裁判員制度の意義と問題点について理解できる。		
		11週	医療と法(1)	インフォームド・コンセントや生殖医療に関わる法的問題について理解できる。		
		12週	事例検討[3]	刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを理解できる。		
		13週	医療と法(2)	尊厳死や安楽死の問題、および臓器移植に関わる法的問題について理解できる。		
		14週	労働と法(1)	労働契約や解雇などの労働に関わる法や制度について理解できる。		
		15週	前期末達成度試験			
		16週	まとめと復習	半年間のまとめを行う。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	100
配点	60	0	0	40	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	中国語 I
科目基礎情報					
科目番号	0087		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 著者: 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほぼずき書籍 2016年発行				
担当教員	張 淑華				
到達目標					
中国語のピンインの発音や声調等を理解でき、身につけるようになり、さらに、基礎的な文法知識を学ぶことにより、中国語で簡単な自己紹介や趣味等話せるようになることを目指す。日常用語や基礎文法の修得を目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	中国語の発音記号であるピンインを覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を殆ど身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど正確に発音できない。また、発音の特徴である声調を殆ど区別できず正確につけられない。		
評価項目2	①基本的な文法構造を理解できる。②基本的な構文、質問の仕方をマスターできる。③時間や曜日、年月日が話せる。	①基本的な文法構造を殆ど理解できる。②基本的な構文、質問の仕方を殆どマスターできる。③時間や曜日、年月日が殆ど話せる。	①基本的な文法構造を理解できない。②基本的な構文、質問の仕方が分からない。③時間や曜日、年月日が話せない。		
評価項目3	①挨拶用語を正確に使える。②簡単な自己紹介ができる。③簡単な短文作りが上手にできる。	①挨拶用語を殆ど正確に使える。②簡単な自己紹介が殆どできる。③簡単な短文作りが殆どできる。	①挨拶が殆どできない。②簡単な自己紹介があまりできない。③簡単な短文作りができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中国語の基礎発音や文法の基礎知識等を重視し、中国語の独特な発音や基礎文法に力を入れる。中国語で自己紹介できるように工夫すし、さらに、中国の伝統文化等も織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。				
授業の進め方・方法	この講義では、板書や作成プリントやICT等を活用する。個人ワークとグループワークを取り入れたり、余りできない学生に個別指導も行ったりして、授業を進める。中国語の概況から始まり、全体について理解した上で、基礎発音や文法の基礎知識等を丁寧に講義する。繰り返し練習することにより、学生が中国語の独特な発音や声調を理解し覚えるようになる。また、学生が中国語で自己紹介できるようになるため、ハンドアウト(プリント作成)や一人ずつのチェック等も工夫する。さらに、中国の伝統文化等を織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。毎回チェックしたり、発表してもらったりする。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	筆頭試験は全体の6割の比重を占め、口頭試験は2割、出欠や授業態度等は残りの2割を占める。100点満点で評価するが、全体の6割以上で合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中国と中国語の概論、発音、指数字等	中国と中国語(特に漢字)について理解し、興味を持つこと。漢字の違いが区別できる。	
	2週	ピンイン発音と声調(説明、練習、歌等)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができる。		
	3週	ピンイン発音、声調、歌等(復習、説明、練習、)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができ、正確に読め、区別できる。		
	4週	第一課 出迎え 単語、本文、文法や基礎発音等(復習、読み、説明、練習等)	挨拶用語を身につけ、挨拶表現を使い分けられ、初対面の挨拶や自己紹介ができる。		
	5週	第一課 出迎え 人体名称や基礎発音等第二課 自己紹介 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	人体各部の名称や挨拶表現等を覚え、使えるようになる。語彙の量を少しずつ増やしていく。		
	6週	第二課 自己紹介 文法など(復習、読み、説明、練習、発表等)	挨拶表現、名前、年齢、誕生日、数字の数え方等を覚え、正確に自己紹介をすることができる。		
	7週	第三課 車内の会話 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	初対面挨拶の常用表現を覚え、家族構成について簡単に表現できる。		
	8週	第三課 車内の会話 家族や親族の呼び方等 第四課 ホームステイ先にて 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	中国の複雑な家族や親族の呼称を覚え、必要な呼称を使い分けられ、正確に自己紹介できる。文法を理解し、簡単な短文が作れる。		
	2ndQ	9週	ワンタン作り(中国食文化の紹介)	食文化に触れ、伝統文化や語学に対する興味と意欲が湧き、異文化理解を深める。北方の家庭料理の一つであるワンタンの作り方などを覚え、作れる。	
	10週	第四課 ホームステイ先にて 文法や医者にかかる時の会話等(復習、読み、説明、練習、発表等)	医者にかかる時の会話を覚え、使える。文法を理解し、短文作りができる。		
	11週	第五課 山水画の鑑賞 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	少し難しい長文や文法を理解でき、使いやすい文型で短文作りができる。		

	12週	第五課 山水画の鑑賞 比較等 第六課 夕食 単語, 本文等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	漢字の比較等について習得する. 文法を理解し, 短文作りができる.
	13週	第六課 夕食 文法, 漢詩の朗読 飲食物の語彙等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	漢詩を朗読できる. 料理の言い方や好み等を覚え, 自己表現できる.
	14週	第七課 朝食 単語, 本文等 飲食物の語彙等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	飲食物について, 自分の意志を会話で表現でき, コミュニケーションがとれる.
	15週	第七課 朝食 単語, 本文 道案内の表現等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	声調変化について理解し, 時間の表現を習得し, 道案内もできるようになる.
	16週		

評価割合

	筆記試験	会話試験	出欠	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
配点	60	20	10	10	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	中国語Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0088		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほおずき書籍 2016年発行					
担当教員	張 淑華					
到達目標						
前期を踏まえ、語彙の量を増やしなが、複雑な文法、文型や長文を習得し、より複雑な表現ができるようになる。受講生が意欲的に取り組み、複雑な短文作りやヒヤリングや会話ができるようになることを到達目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	発音が正確であり、文法をよく理解できる。語彙の量が多く、正確に使い分けられる。	発音が殆ど正確であり、文法を理解できる。語彙の量が多く、殆ど正確に使い分けられる。	発音が不正確であり、文法をあまり理解できない。語彙の量が少なく、正確に使い分けられない。			
評価項目2	とても積極的に練習や会話に参加でき、辞書の引き方も良く分かる。	積極的に練習や会話に参加でき、態度が良い、辞書の引き方が大体分かる。	積極的に練習や会話に参加できないし、態度も良くない。辞書の引き方が殆ど分からない。			
評価項目3	聞きとりと会話が上手であり、主動的な会話もできる。短文づくりが正確である。質問もできる。	聞きとりと会話ができる。短文づくりが殆ど正確であり、質問も少しできる。	聞きとりと会話が下手であり、主動的な会話もできない。短文づくりが殆どできないし、質問もできない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	中国語Ⅰを履修した学生を対象とする。前期の基礎を踏まえ、語彙の量を増やしなが、少しずつ複雑な会話や文法等を学習し、理解する。説明や比較によって、両国の漢字のずれや違い等を区別でき、受講生の学習意欲を引き出し、レベルアップを求める。中国の伝統文化等についても紹介、講義し、さらに実践を加えることにより、受講生の異文化に対する理解を深めていく。					
授業の進め方・方法	前期のピンイン(発音)ばかりでなく、内容についても身につけさせるために、復習、朗読、暗誦等いろいろな方法で身につけさせる。その他の講義では前半は新しい内容、読み方や意味などを説明し、後半は復習、発音と会話の練習を行い、最後に習得状況を確認する。授業内容の中で、漢字のずれと比較、文法、表現や意味の違い等を説明したり、発見してもらったりすることにより、記憶を強めることができるようにする。宿題をチェックし、ミス等について説明する。なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	成績はトータルで評価する為、1、宿題と授業中の確認テスト(10点) 2、出席状況と態度(10点) 3、口頭試験(20点) 4、筆頭試験(60点) 合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	前期の復習、暗誦第三課迄	忘れた内容を復習することにより、身につけることができる。		
		2週	前期の復習、暗誦 第六課迄	漢詩を朗読できる。料理の言い方や好み等を覚え、自己表現できる。		
		3週	第七課朝食 単語、本文、結果補語、飲食関係の語彙(復習、読み、説明、練習等)	飲食関係の語彙量を増やし、料理の言い方や好み等を覚え、自己表現できる。		
		4週	第七課朝食 心理動詞、副詞や能願助動詞 第八課昼食 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	文法や文型等を理解し、簡単な短文を自分で作成できるようになる。時間の表現ができるようになる。		
		5週	第八課昼食 文法 曜日の言い方等	注文時の言い方を覚え、使い分けられ、正確に注文できるようになる。曜日の言い方も習得する。		
		6週	第九課プティックにて 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	店員との会話を習得し、買い物ができるようになる。文法を理解し、少し長い短文が作れるようになる。		
		7週	第九課プティックにて 漢詩の朗読等 第十課試着 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	店員との会話を習得し、買い物ができるようになる。文法を理解し、漢詩を朗読・暗誦できるようになる。		
		8週	第十課試着、文法や色の言い方等(復習、読み、説明、練習、発表等)	文法を理解し、少し複雑な文型で短文づくりができるようになる。		
	4thQ	9週	中国伝統文化の紹介(実施不能な場合は、授業計画繰り上げをする予定)	目のマッサージや羽根蹴り等、体を動かしながら、中国文化に触れることができ、学習意欲が湧いてくるようになる。		
		10週	第十一課値段交渉 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	服装店にて自分の好みなど表現でき、買い物を楽しむことができる。語彙の量を増やし、少し複雑な会話ができるようになる。		
		11週	第十一課値段交渉 文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	値段交渉できるようになり、会話を楽しむことができるようになる。人民幣の使い方が分かる。		
		12週	第十二課お支払い 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	お支払いについての会話表現を習得できるようになり、さらに会話を楽しめる。		
		13週	第十二課お支払い 趣味の語彙や中国貨幣の言い方 第十三課本屋にて 単語、本文(復習、読み、説明、会話練習等)	金額の言い方やお支払いのやり取りばかりでなく、さらに趣味の言い方を覚え、会話表現がより多彩、豊かになる。		

	14週	第十三課本屋にて 旅行についての会話等 (復習, 読み, 説明, 会話練習, 発表等)	本屋での買い物ばかりでなく, 旅行についても話せるようになる. 値引きも覚える. 金額教具を使い値段交渉について会話練習をする.
	15週	第十四課兆麟公園の氷祭り 単語, 本文, 文法等 (復習, 読み, 説明, 会話練習, 発表等)	長文に慣れ, 複雑な長い短文作りもできるようになる. 中国の歌やゲーム等を覚える.
	16週		

評価割合

	口頭試験	筆頭試験	出席状況 (平常点)	レポート	その他 (宿題)	合計
総合評価割合	20	60	10	0	10	100
配点	20	60	10	0	10	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ハングル I	
科目基礎情報						
科目番号	0089		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	斐 湖珠					
到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事、簡単な会話ができる。		韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事ができる。		韓国語の基本子音と母音を書く事ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	韓国語を初めて学ぶ学生を対象にする。まず、文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いを理解することを学ぶ。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り ・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(10%)、小テスト (20%) 学習態度 (10%)合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 必要に応じてメールで対応					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	ハングル文字の仕組みやハングルの由来に対して勉強する。		
		2週	韓国語の発音①	濃音、激音、子音の基本の読み書き		
		3週	韓国語の発音①	合成母音、終音で基本の読み書き、パッチム		
		4週	韓国語の発音③	発音の変化		
		5週	挨拶・韓国の地図	基本的な挨拶文と韓国の地名を習う。		
		6週	第1課・第2課	「～は、～です、～が、～ですか」練習問題		
		7週	家族の呼称	韓国では家族の呼び方に対して習う。		
		8週	第3課・第4課	指示代名詞を習う		
	2ndQ	9週	第5課・第6課	「します・しますか」を習う		
		10週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習、考え方を理解する		
		11週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		12週	第7課・第8課	「～です、～ます」を習う		
		13週	/形の縮約パターン	/形のまとめ		
		14週	数字	漢数詞と固有数詞を習う		
		15週	試験			
		16週	第9課・第10課	時計を読む事を習う		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ハングルⅡ	
科目基礎情報						
科目番号	0090		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	斐 湖珠					
到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、自国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	韓国語で基本的な日常生活会話ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期のハングルⅠを履修した学生を対象とする。まず、前期で習った文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、簡単な会話を学ぶ。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り 適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。 <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(10%)の学習態度(10%)、小テスト (10%) 合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 必要に応じてメールで対応					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第11課・第12課	動詞や形容詞の否定文		
		2週	韓国語の中の外来語、敬語	韓国語の外来語、敬語を習う		
		3週	第13課	過去型		
		4週	過去型まとめ	過去型の「/」変換		
		5週	第14課・第15課	曜日に対して習う。		
		6週	身体・位置関係	身体・位置関係する単語を習う。		
		7週	第16課	「～できる」に対して習う。		
		8週	第17課	「～したい」に対して習う。		
	4thQ	9週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習、考え方を理解する		
		10週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		11週	第18課	「～してもいい」に対して習う。		
		12週	第19課	「～しなければならない」と意志に対して習う。		
		13週	韓国の新年伝統遊び	韓国の正月の遊びを体験する。		
		14週	第20課	未来形を習う。		
		15週	試験			
		16週	まとめ	半年間のまとめ		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	経済学	
科目基礎情報						
科目番号	0091		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	授業中に適宜資料を配布する					
担当教員	中島 琢郎					
到達目標						
企業/組織運営の視座から経済に関する理解を深め、実践的に活用できる知識・技術の習得を目標とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1 各種理論の「記憶」	専門用語を概ね記憶している		専門用語をまずまず記憶している		専門用語をほとんど記憶していない	
評価項目2 各種理論の「理解」	専門的な概念を概ね理解している		専門的な概念をまずまず理解している		専門的な概念をほとんど理解していない	
評価項目3 各種理論の「実践」	理論に基づいた実践が概ねできる		理論に基づいた実践がまずまずできる		理論に基づいた実践がほとんどできない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	経済学は、社会の仕組みを「経済」の観点から明らかにしようとする学問である。本授業では、とりわけ企業や組織に焦点を当て、経済学の近傍に位置する経営学を手掛かりに社会のメカニズムを学ぶ(狭義の経済学)。いわゆるマクロ経済やミクロ経済は、本講義のスコープ外となるため、履修登録の際は留意してほしい。					
授業の進め方・方法	「座学」と「演習」を織り交えながら、授業を進行する。受講生の理解度に応じて、授業の進捗や内容(難易度)を柔軟に変更する。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価>試験(60%)、平常点(40%)とする。評価結果60%以上の者を合格とする。 <オフィスアワー>授業終了後、教室または非常勤講師控室。 <先修科目・後修科目>先修科目:現代社会					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	授業の目的、進行方法、評価基準、履修ルールなどを理解する		
		2週	国際貿易(1)	国際貿易を題材に、財・サービスと貨幣の交換メカニズムを理解する		
		3週	国際貿易(2)	国際貿易を題材に、財・サービスと貨幣の交換メカニズムを理解する		
		4週	環境分析	代表的な分析フレームワーク(3C分析/5F分析)を習得する		
		5週	経営戦略	代表的な経営戦略(ポーターの競争戦略の類型化等)を理解する		
		6週	アカウンティング(1)	損益計算書、貸借対照表の構造を理解する		
		7週	アカウンティング(2)	損益分岐点の算出方法を習得する		
		8週	マーケティング(1)	STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)を理解する		
	4thQ	9週	マーケティング(2)	マーケティング・ミックス(製品戦略、価格戦略、流通戦略、コミュニケーション戦略)を理解する		
		10週	人的資源管理(1)	組織文化が及ぼす影響を理解し、理念浸透施策を実際に考案する		
		11週	人的資源管理(2)	ミシガンモデルに基づいて、アルバイト先の人事システムを設計する		
		12週	組織行動論(1)	PM理論に基づいて、アルバイト先の上司を評価する		
		13週	組織行動論(2)	個人のカ(モチベーション)を引き出す勘所を掴む		
		14週	組織行動論(3)	集団のカ(グループ・ダイナミクス)を引き出す勘所を掴む		
		15週	学年末達成度試験			
		16週	講義のまとめ	基礎知識の理解度を再確認する		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100